

2005年度 社団法人呉青年会議所 事業報告書 収支決算書

目次

1. 理事長報告	2
2. 副理事長報告	5
3. 情熱のまちづくり室	
室長報告	6
創造の匠委員会報告	7
まちづくりの匠委員会報告	12
4. 情熱のひとづくり室	
室長報告	20
情熱のある共生のまち創造委員会報告	21
アカデミー委員会報告	30
5. 総務運営室	
室長報告	36
渉外委員会報告	37
総務委員会報告	43
6. 専務理事報告	51
7. 財務運営会議報告	52
8. 事務局長報告	54
9. セクレタリー報告	56
10. 出向者報告	57
11. 収支決算報告書	59

理事長報告

理事長 金原 一次

「情熱～いまやらねばいつできる わしがやらねばだれがやる～」

このスローガンを片時も忘れることなく一年間活動をして参りました。所信の中にも書かせて頂きましたが、～利潤だけを追求するがために事件に目を塞ぎ、口を塞ぐ企業、そして利潤だけを追求するがために事件に目を塞ぎ、口を塞ぐ企業～そのままの社会現象が現実にある中で、2005年度活動方針を振り返ったときに、改めて取組みに対し確信をいたしました。また、2005年も多くの幼い尊い命が無残にも奪われ、一体「何が」「どうして」「これからどうなるのか」と言った不安と恐怖心だけがいつも我々の周りに付きまとい、私たち青年会議所の活動に次々と宿題を突きつけられているような心境で、スローガンの通り、青年であり、親であり、次世代を引導していく使命というものをゆるぎなく実感した次第です。

しかし一方で、地元の青年や子どもたちと協働で事業をしていく中でその笑顔と躍動に対して、この財産を守らなければならないという責任と賛同いただく企業や団体との交流によって、いろんなところに可能性を改めて痛感させられ、さらに心を熱くした事業ばかりであったように思います。

「過小な犠牲」いわゆる目の前を通り過ぎてしまう傍観的な無責任さによってうまれる犠牲が今起きている社会問題の根幹である事は紛れもない現実です。その中でJCは「他の利」を追求し続け、「無償の愛」によって、時には一番の理解者を犠牲にしながら、この呉のために活動し続けている事を誇りに思います。

《基本方針》

「呉らしさ」からうまれるまちづくりは、

合併により、さらにアイデンティティが追求されました。

1. 産官学との連携と「文化」あふれるまちづくりの実践

2005年3月、人口26万人、一市八町の合併により「新生呉市」が生まれました。同時に新しい文化や産業交流が生まれたわけですが、将来に向けての「未来予想図」を明確にしなければ、ただの行政区画の融合にしか過ぎません。「海事歴史科学館」いわゆる大和ミュージアムによって、さらにその重要性がクローズアップされたのではないのでしょうか。平安の古から伝わり、地政学的な背景によって発展した海洋、造船、鋳鉄、精密技術により隆盛し、さらに地域の新しい産業の創世と文化が生まれ、その繰り返し、いわゆる継承と発展によって今があるという事です。そういった「新生呉市」の認識と文化交流の再発見をする為に、産業、行政、教育機関によって彩られたのが、まちづくりの匠委員会による「呉のよいところ発見ツアー海光会」であり、更には創造の匠委員会が実施し、歴史認識や世代を超えた継承を相互のコミュニケーションの重要性と地財を活かした事業「ええじゃないか 情熱大陸 ツアー2005 in 新生呉市」であったと思います。これは産官学のコミュニケーションツールであった「お茶の間会議」において、ワークショップや検証の議論を、ひとつの事業を作り上

げるといふきっかけが、呉の将来像や活性化を若い視点と補完する企業や行政のソリューションであったと思います。

現実的な実践として、呉のリーダーを決める首長選挙を我々の活動の最大の好機としてマニフェスト型公開討論会「呉の未来に向かって」で、小笠原(当時市長)、小村(現市長)両候補に呉の未来を語って頂き、しっかりと責任のある発言と約束をして頂きました。これは選挙を政策として利用したのではなく、文化の融合した新生呉の諸問題やビジョンをしっかりと認識し、「情熱」のあるリーダーに私たちの未来を預ける為に、その役を担って頂きました。当然、批判もありましたが「自分たちがやらなければならない」という責任と宿命をしっかりと感じられ、また市民の方からも暖かい声援をいっばいに受けた2005年を象徴する事業のひとつでもありました。

「呉らしさ」を守ろうとする情熱が「まち」を変えていきます。

そんなプライドのある人材が生まれました。

2. 「情熱」とプライドのある人づくりの実践

人づくりという言葉は、現実的な言葉ではありませんが「人材の育成」という言葉に置き換えて活動を行ってまいりました。何の為の人材育成か、それは「明るい豊かなまち」を創造していく為に自らが率先し、さらには社会で活躍し共感する協働者を発掘していく為です。まちの伝統や歴史そして文化を守るという情熱と、「自らが守り続けて」いくというプライドを各自が持つことによってさらに、発展と伝承が生まれてくるものだと実感します。呉で生まれた「大和」は、海上特攻といわれた最後の航海へ出るときに、乗組員はみなその事実を知らされていないにも関わらず、その使命を感じ、出港前夜の是非論の中で最終的に「愛するものを守る為」に自らが犠牲にならなければ、本土決戦で「愛するものの全てを失う」と決心し、「死に向かう」わけです。スケールは違うものの、時代を切り拓くのは我々青年の使命である・・・という青年会議所そのものであると思います。

2005年度方針に則り、アカデミー委員会が新たなメンバーの拡大をし、啓発活動を行って頂き、また新たな資質の高い同志が生まれています。

情熱ある共生のまち創造委員会においては、次世代の育成を主たる目的として「情熱世代だべり場 in 呉」と題し、地元の生徒や学生そして若者と自由な環境で「まち」を語り、「夢」を語ったなかから「クルーミーティング」という夢づくりの実行委員会が立ち上がり、その夢を形にと「パブリックウェイブ2005」を開催し、思い々の形を自分たちの流儀で、そして次代への情熱の架け橋として友情を培って頂いたのではないのでしょうか。そういった若者を自分たちへのエッセンスとして、または活性剤としてメンバーが啓発され、同時に「呉」の次世代育成として寄与させて頂いたものと自負しています。

「創業守成」それは

自分以外の誰かの為に、何かの為に一生懸命になる事から始ります。

3. 公益法人として運営の健全と刷新

「まつり」は「奉仕」によって大切なものが守られ、参加して緊張感を味わい、また受継ぐ為に継承者を育てていく。その一連の組織のかかわりの中で、礼節が植え込まれ、そして歴史を学び、実感し、また次の世代へと受継ぐ準備を行っていく。それこそが老若問わずそれぞれの役割と一連の組織の中での「自分」という立場も継承の連鎖の重責を担っているという事に気づくことです当然、環境によって様々な人格があると思いますが、お互いが他を認め合うと同時に、同じ目的で行動を共にし、「あるがままの」現実を受け入れ永遠に伝承していくために英知と情熱をもって行動する。それがいま求められる青年会議所であると思います。口に出すこと、行動する事はリーダーの決断によって対応すれば容易ではありますが、それを続けていくこと、守っていくことは歴史と時流のバランスを鑑みた上で慎重かつ迅速に行動しなければなりません。行政の合併による行動区域の広域化やメンバーの減少等による財源の確保、事業収支の見直しなど、民間企業であれば直ちにでも処置をしなければならない問題が山積し、組織を存続するが故の「改革」が必要であると改めて認識しました。そんな現状の中で、外に動く為には内部認識が必要であると思い、総務委員会により全ての例会において2005年度の伝えたい事をより効果的に啓蒙するため、目的を理解頂ける著名人にご講演頂き、時には市民を招待して青年会議所の活動を認識頂けたものと思います。また、渉外委員会によって「呉」の伝道師として海外や国内でコンファレンスにブースを出展し、または友好団体や青年会議所と友情を深める事で、人的な交流をする事で相互の文化的交流も図れたのではないかと思います。

迫り来る特殊法人に関する改正により、会計基準(税制優遇)も営利、非営利に分断されようとしています。また社会的背景や価値観の違いから生まれる「会員の減少」によって、より適正な運営が求められていると改めて実感しました。「歴史」は作って行くものであり、継承する為には、問題点を抽出し、環境に適合しつつ、改善し続けなければなりません。従来の「やり方」を続けるというのは継承ではなく、停滞もしくは腐敗し続けているという事を認識しなければ、明るい社会どころか明日の青年会議所の将来は無いものと思います。明るい社会を創造するという事、それはまずは自分たちの心とJCの気概の魂を磨き続けるという事、そして市民一人ひとりが「自分以外の誰かの為に、何かの為に一生懸命になる」という「無償の愛」を常に持つことで「まち」は変わるものと思います。

「わしがやらねば」という自尊心と、「いまやらねば」という情熱によって誇りある一年であったように思います。

副理事長報告

副理事長 高塩 光延

副理事長 河内 康浩

副理事長 船尾 慎

本年度、青年会議所生活最後の年に、副理事長という大役を務めさせて頂きました。金原一次理事長スローガン『情熱』のもと、「立ち向かう」JCを前面に押し出し新しい取り組みを沢山行ってまいりました。副理事長とはどうあるべきか、正副としての考え、理事としての考え、メンバーとしての考え、常に冷静に全体を見渡し、事業を通じて会員交流を図り、指導力も実践の中から鍛えすべての出来事を把握し立ち向かい楽しく笑顔で活動するよう心がけました。我々自身にとって多くの気づきや感動し学ぶ年になりました。

いつの時代も『情熱』という熱い「情」は人が生きて育つ過程において必要不可欠であります。温故知新、52年間諸先輩から引き継がれてきた呉JCの歴史・伝統・誇りに感謝し、今、変えてはいけないもの、変えなければならないもの今の現状を明確に判断し、公益法人として、これから先の青年会議所活動を見据えて、～いまやらねば、いつできる、わしがやらねば、だれがやる～、と勇ましいサブタイトルで今だからこそ今こそ変えなければいけない事に取り組んでまいりました。新しい取り組みを起こす時には何らかの不平・不満が生じるのは、世の常のように感じますし実際にそのように感じました。私たちはJCを愛しています。だからこそ今現状を把握し、「情」忘れず、今の時代に適した一歩も二歩も先の未来に向けての青年会議所活動を行う為に実践してまいりました。

「自分以外の誰かの為に何かの為に一生懸命になる。」本年度、室長のみなさんは常に室の頭となりリーダーシップを発揮し両委員会を取り纏め支えて頂きました。委員長のみなさんは、プレッシャーを受けながらも一生懸命取り組み、人と人の信頼関係を築き上げ、あらゆる考え方を知り、それぞれの悩みや葛藤はありましたが各委員会共に年間事業計画に則した事業を展開してまいりました。

産官学の連携を大切に、これからも青年会議所は地域のリーダーとして、メンバー足なみをそろえて真心をひとつに意識統一し、明日の新生「くれのまちづくり」のために尽くさせていただく、組織力ある集団でなければならないと考えます。

最後になりましたが、反省する点は多々ございますが最後まで副理事長の大役を務めることができましたのも、『情熱』を持ったメンバーみなさまの無償の愛と熱い友情のおかげだと心より感謝致しております。改めてメンバーのみなさまに、又、本年度かかわったすべてのみなさまに御礼申し上げ、副理事長報告とさせて頂きます。ありがとうございました。

情熱のまちづくり室

室長報告

室長 浜村 友嗣

本年度「情熱のまちづくり室」では、“産官学の連携と文化あふれるまちづくり”をキーワードに一年間活動して参りました。

まず、創造の匠委員会・まちづくり匠委員会合同で「くれお茶の間会議」と題し、JCメンバー以外にも、産（企業）官（行政）学（学生・学術機関）の多くの方たちにも賛同・参加頂きまして、計6回の会議を開催致しました。呉市の現状の認識・問題点・打開策等、様々なテーマについて議論を交わして参りました。この「くれお茶の間会議」の参加によって、各分野の垣根の越えた交流が生まれました。

議論の中で出た意見を元に、まちづくりの匠委員会では、呉の良いところ発見ツアー【～海光会～】を、創造の匠委員会では：～コミュニケーション形成 実践事業～“ええじゃないか”情熱大陸ツアー2005 in 新生 呉市 を実施致しました。事業開催までの準備から、実施に至るまで「くれお茶の間会議」に参加頂きました、産官学の皆様にご協力を頂きまして実施することが出来ました。

また、10月には呉市長選挙が行われるにおきまして、『～呉の未来に向かって～』呉市長選挙 ローカル・マニフェスト型 公開討論会を開催致しました。首長は政策によって市民が選ぶのだとの考えのもと、立候補者にも賛同頂きまして実施することが出来ました。多くのマスメディアにも取り上げられる程、反響も大きかった事業でした。

手探りの一年間で、あっという間に過ぎてしまいましたが、温かい気持ちで見守って頂きました正副役員の方々、頼りない室長に付いて来てくれた、兼田・寺下委員長をはじめとする委員会スタッフ・メンバーの方に大変感謝しております。

一年間、ありがとうございました。

創造の匠委員会

委員長 兼田 秀一

委員会報告

2005年度、創造の匠委員会では、近年我々の『人づくり』団体としてのJC活動において、コミュニケーション形成の重要性を継続して市民・行政に訴えつづけてまいりました。コミュニケーションの形成はあらゆる『人づくり』に必要不可欠であり、もっとも基本でもっとも重要であると考えております。しかしながら、近年の日本ではコミュニケーションがなくても生活できる環境にあり、逆に「煩わしい、面倒くさい」とコミュニケーションは敬遠されているようにも感じます。そこでまず当委員会では、コミュニケーション不足の原因に着目しました。「ひとは一人では生きていけない。自分を取り巻く様々な人が、本当は自分にとって大切な人で、その人たちを大切に思えることこそが“まちづくり”に必要なコミュニケーションである」と委員会で結論付け活動してまいりました。

2月から始まった“くれお茶の間会議”では産官学の方々と様々な角度から呉のまちづくりのことにについて活発な意見交換をしました。また、私自身まちづくりのことに對してたくさん勉強させて頂き、産官学の方々と出会う、沢山の話を聞かせて頂いたり、意見させて頂いたりして、今まで知りえなかった出会えなかった貴重な体験をさせて頂くことができました。これは私にとって一生の財産となりました。

10月9日の事業では市民の方々に参加して頂き、まちづくりに必要不可欠なコミュニケーションの形成を体験体感して頂き、沢山の笑顔に出会うことができました。今まで一言で“まちづくり”と言ってきましたが、この一年でこの言葉のもつ重要性、重大性、可能性に改めて気づかされました。このことは終わることなく、過去から未来に受け継がれなくてはならないことも重ねて重要であると考えます。

最後に、今年一年間、多大なご負担をかけて全力でサポートして頂いた浜村室長をはじめ、最後まで見捨てず支えていただいた田尻副委員長・津川副委員長・石井幹事・委員会メンバーの方々に深く感謝申し上げます。また、このような素晴らしい機会を与えていただいた(社)呉青年会議所・メンバーの皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

事業報告

1. 事業名：情熱のまちづくり事業（企画・調査編）～くれお茶の間会議～

日時：第1回くれお茶の間会議	2月25日（金）	19：00～21：00
第2回くれお茶の間会議	3月25日（金）	19：00～21：00
第3回くれお茶の間会議	4月22日（金）	19：00～21：00
第4回くれお茶の間会議	5月20日（金）	19：00～21：00
第5回くれお茶の間会議	6月17日（金）	19：00～21：00
第6回くれお茶の間会議	7月15日（金）	19：00～21：00

場所：ビューポートくれ3F（呉市きんろうプラザ）

目的：（対外）呉の歴史・文化を再認識し産官学を交えて、呉JCがインターメディアリーとなりコミュニケーションを重ね、従来の枠を超えたまちづくりに対するコミュニケーションを持つ事で、コミュニティーを形成する。

（対内）くれお茶の間会議において、コミュニケーションを通じて、コミュニティーの形成の必要性を理解してまちづくり実践事業に向けてリーダーシップを発揮する。

方法：第1回くれお茶の間会議は、JCメンバーのみを対象とした会議として、まちづくりは「産官学」の連携の必要性についてと、コミュニケーションの必要性について実施いたしました。

今年、3月20日「平成の大合併」が最終局面を迎え、25万人の人口となり、様々な産業や伝統文化そして「ひと」が新しい「呉」に集約され、さらに未来に向けての方向性が必要となり、わたしたちメンバー、一人ひとりが、この「まち」の現状を知り、自分達が住むこの「まち」をもっと好きになっていくことが、「文化の継承」いわゆる「呉らしさ」を生み出すものだと考え、これからは各方面において、多種多様なコミュニケーションを取り合い、そこで形成されるコミュニティーこそが必要となります。そのコミュニティーから生まれるビジョンや問題点を皆で一緒に考え、解決に向けて、より連携を深めなければなりません。この連携が「まちづくり」には必要不可欠と位置づけました。

第2回目くれお茶の間会議は、外部協力者として「産官学」の方々にご出席頂き、まちづくりについて一緒に協議しました。

各立場においてまちづくりは、地域貢献と社会貢献の位置づけ、必要性についてワークショップ形式で考えていきました。そして、現状の認識として、呉の良い所を皆で話し合い、再発見・発掘を〔文化・食・観光・住環境〕それぞれの項目ごとに出し合って頂きました。

第3回目くれお茶の間会議は、第2回目までを集計した結果、このまちには、私たち自身が、知らないことや、行ったことない場所、名前は聞いたことがあるが何か分からない物、そんな実情があり、このまちに住み、このまちの事を考えるまえに、2委員会で実際にその場所へ行って調査してきました。新たに加わった8町についてそれぞれの調査発表を致しました。

その結果、これらはまだまだほんの一部に過ぎませんが、自分の住むまちがもっと活気のあるところになりたいという共通の意識があると考えられました。そこで共通としての問題点を「各地域それぞれの活性化」というところに着眼しました。この

ように、今年、このまちは合併により新生呉市となったあかしとして、旧市内だけではなく各地域についても新たな認識をし、広い視野で見つめていかなければいけません。

それらを前提に「もっとこのまちの事を好きになるために」をテーマに皆様で考えて頂きました。

このまちの主役である「市民」に対して、「このまちに住む一人でも多くの方が、もっとこのまちの事を好きになってもらうために」という目的に行ってきました。今年、このまちは合併により新生呉市となったあかしとして、旧市内だけではなく各地域についても新たな認識をし、広い視野で見つめていかなければいけない。このように、このまちのことを一緒に考えて頂ける方を中心として産官学のコミュニティーを形成します。

第4回目くれお茶の間会議は、今までの会議で考えて頂いた内容は、具現化し実践することによって、「新しい呉らしさ」が生まれ、自分達の住むまちにほこりをもてるようになると考えました。

そして「このまちに住む一人でも多くの方が、このまちのことを好きになっていく」ことだと考えました。今会議を含め出して頂いた意見やアイデアをもとに、具現化に向けて市民参加型の継続できる企画を考えて頂きました。

第5回目くれお茶の間会議は、第4回目までの意見・アイデアや企画を元に、「学」学術機関である各大学の学生さん達それぞれに具体的なプランをプレゼンして頂き、それを参加者全員でさらにより効果的なプラン立てをして頂いた。

第6回目は最終回となる会議なので、全会議を通じて、皆でこのまちについて話し合った結果、数多くの意見やアイデアを出して頂いた総まとめとして、復習をし、それらを元に具体的な企画を1つに盛り込み、具現化し実行に向けての最終的な企画を発表しました。実行に向けての決起集会となりました。

結果：会議を通じ産官学がそれぞれ連携を深めることで新たな枠組みが生まれ、具体性を持ったより良いまちづくりにつながるきっかけとなりました。



お茶の間会議の様子



お茶の間会議の様子

2. 事業名：～コミュニケーション形成 実践事業～

“ええじゃないか”情熱大陸ツアー 2005 in 新生 呉市

日時：10月9日(日)

場所：新生呉市(広～蒲刈・呉～音戸)

目的：自分以外の人を大切に思うことに気づかせるコミュニケーションの実践

方法：JCメンバー1名と小学生高学年以上3名と地域の大人1名の計5名の面識のない人同士が1つのグループになり共通の目的(ゴールする)をもってウォークラリー方式により、7つのチェックポイントに立ち寄りながらスタンプラリーも併せて行いながら、自分以外の人を大切に思うことに気づいていただけるコミュニケーションの実践事業を行いました。

コースは広・蒲刈コースと呉・音戸コースの2コースにて開催しました。

呉中央公園をスタートしてヒントを提示してその場所がどこなのかグループメンバー全員で考え、また分からない時は市民の方に聞いたりしながらその場所を特定しました。ヒントで与えた場所(チェックポイント)は各コースとも7つ用意しました。移動手段は呉市営バスが徒歩にて行いました。

7箇所のチェックポイントではインシアティブゲームを利用してグループのコミュニケーションが深まりやすくなるようにしました。また、チェックポイントやスタンプラリーの場所ではその場所の歴史を説明してクイズをすることで歴史の伝承を促しました。ゴールして帰りの道中でアンケートに回答してもらい、本事業の検証材料とさせていただきます。

参加者の動員におきましては、呉市内の各地域の小学校・スポーツ団体・NPO法人・子ども会・昨年実施したキンボールチーム・保護者会・地域で活動されている様々な団体などに出向いて趣旨目的を伝えてチラシと実施要領を渡して動員をお願いいたしました。

効果：面識のない人同士がかなりきついコースをラリーすることで様々な面倒くさい煩わしい環境の中からコミュニケーションが形成され、連帯感が生まれ信頼関係ができた。また、ヒントから考えて目的地を決定する上でグループ以外の地域様々な方々に率先してコミュニケーションをとっていき事ができました。更に自分の周りにいる人(グループメンバー等)の大切さに気づきことにより、家庭に帰って挨拶をしたり、何でも会話をしたり、地域に帰っては自分以外の身近な人とコミュニケーションである挨拶をしたり地域の行事に参加したりすることで、家庭やまちにコミュニケーションが溢れ、活気あるまちが形成されるきっかけづくりとなりました。





まちづくりの匠委員会

委員長 寺下 正博

委員会報告

当委員会では、「夢と誇り」～continue～」をスローガンに、「精魂込めて、創り続けて、まちづくりの匠になる」という目標を年当初に掲げました。

現在を取り巻く社会では、地方分権時代を迎え、主体性と創意工夫に基づく、魅力ある個性豊かなまちづくりが必要とされており、この魅力ある個性を創る施策形成過程でも市民の参加が必要不可欠となってまいりました。

このまちの主演(主体)となる人はこのまちに住む人々(市民)と位置付け、行政・企業・学生・各種諸団体・市民個人一人ひとりが一体となった協同型まちづくりの必要性を感じ、「活力にあふれ、幸せを感じることでできる魅力あるまち」すなわち、我がまちが「心地よいまち」だと皆が思えるまちを目視し、市民の一人ひとりが自発的で個性的なまちづくりを通じてより良いまちになっていくよう一年間取り組み、各種事業を遂行致しました。

合併により更に多くの人々・広い地域になった今、このまちに住む人々が、もっとこのまちを好きになったら、このまちのことをより真剣に考える人が一人でも多く増え、このまちに住む人々はコミュニケーションが深まり、人と人との交流が一層増し、新生呉市というまち全体が更なる活気に満ち溢れたまちに変化していくことにつながります。

この一年間のまちづくり事業を通じ、このまちに住む人々が、もっとこのまちを好きになってくれたのではないかと確信しております。

私自身も委員長という大役を授かり、初めての経験ばかりで、手探りな状態からでしたが、多くの方々との出会いや、体験や発見を重ねることで、自分自身とても勉強になり、多くの知識も養われたように実感しております。これもJCMメンバー皆様のご支援ご協力があったからこそだと思います。それ以外にも多くの市民の方々にもご支援ご協力を頂き感謝しております。

一年間、ありがとうございました。

事業報告

1. 事業名：情熱のまちづくり事業（企画・調査編）～くれお茶の間会議～

日時：第1回くれお茶の間会議	2月25日（金）	19：00～21：00
第2回くれお茶の間会議	3月25日（金）	19：00～21：00
第3回くれお茶の間会議	4月22日（金）	19：00～21：00
第4回くれお茶の間会議	5月20日（金）	19：00～21：00
第5回くれお茶の間会議	6月17日（金）	19：00～21：00
第6回くれお茶の間会議	7月15日（金）	19：00～21：00

場所：ビューポートくれ3F（呉市きんろうプラザ）

目的：（対外）呉の歴史・文化を再認識し産官学を交えて、呉JCがインターメディアリーとなりコミュニケーションを重ね、従来の枠を超えたまちづくりに対するコミュニケーションを持つ事で、コミュニティーを形成する。

（対内）くれお茶の間会議において、コミュニケーションを通じて、コミュニティーの形成の必要性を理解してまちづくり実践事業に向けてリーダーシップを発揮する。

方法：第1回くれお茶の間会議は、JCメンバーのみを対象とした会議として、まちづくりは「産官学」の連携の必要性についてと、コミュニケーションの必要性について実施いたしました。

今年、3月20日「平成の大合併」が最終局面を迎え、25万人の人口となり、様々な産業や伝統文化そして「ひと」が新しい「呉」に集約され、さらに未来に向けての方向性が必要となり、わたしたちメンバー、一人ひとりが、この「まち」の現状を知り、自分達が住むこの「まち」をもっと好きになっていくことが、「文化の継承」いわゆる「呉らしさ」を生み出すものだと考え、これからは各方面において、多種多様なコミュニケーションを取り合い、そこで形成されるコミュニティーこそが必要となります。そのコミュニティーから生まれるビジョンや問題点を皆で一緒に考え、解決に向けて、より連携を深めなければなりません。この連携が「まちづくり」には必要不可欠と位置づけました。

第2回目くれお茶の間会議は、外部協力者として「産官学」の方々にご出席頂き、まちづくりについて一緒に協議しました。

各立場においてまちづくりは、地域貢献と社会貢献の位置づけ、必要性についてワークショップ形式で考えていきました。そして、現状の認識として、呉の良い所を皆で話し合い、再発見・発掘を〔文化・食・観光・住環境〕それぞれの項目ごとに出し合って頂きました。

第3回目くれお茶の間会議は、第2回目までを集計した結果、このまちには、私たち自身が、知らないことや、行ったことない場所、名前は聞いたことがあるが何か分からない物、そんな実情があり、このまちに住み、このまちの事を考えるまえに、2委員会で実際にその場所へ行って調査してきました。新たに加わった8町についてそれぞれの調査発表を致しました。

その結果、これらはまだまだほんの一部に過ぎませんが、自分の住むまちがもっと活気のあるところになりたいという共通の意識があると考えられました。そこで共通としての問題点を「各地域それぞれの活性化」というところに着眼しました。この

ように、今年、このまちは合併により新生呉市となったあかしとして、旧市内だけではなく各地域についても新たな認識をし、広い視野で見つめていかなければいけません。

それらを前提に「もっとこのまちの事を好きになるために」をテーマに皆様で考えて頂きました。

このまちの主役である「市民」に対して、「このまちに住む一人でも多くの方が、もっとこのまちの事を好きになってもらうために」という目的に行ってきました。今年、このまちは合併により新生呉市となったあかしとして、旧市内だけではなく各地域についても新たな認識をし、広い視野で見つめていかなければいけない。このように、このまちのことを一緒に考えて頂ける方を中心として産官学のコミュニティーを形成します。

第4回目くれお茶の間会議は、今までの会議で考えて頂いた内容は、具現化し実践することによって、「新しい呉らしさ」が生まれ、自分達の住むまちにほこりをもてるようになると考えました。

そして「このまちに住む一人でも多くの方が、このまちのことを好きになっていく」ことだと考えました。今会議を含め出して頂いた意見やアイデアをもとに、具現化に向けて市民参加型の継続できる企画を考えて頂きました。

第5回目くれお茶の間会議は、第4回目までの意見・アイデアや企画を元に、「学」学術機関である各大学の学生さん達それぞれに具体的なプランをプレゼンして頂き、それを参加者全員でさらにより効果的なプラン立てをして頂いた。

第6回目は最終回となる会議なので、全会議を通じて、皆でこのまちについて話した結果、数多くの意見やアイデアを出して頂いた総まとめとして、復習をし、それらを元に具体的な企画を1つに盛り込み、具現化し実行に向けての最終的な企画を発表しました。実行に向けての決起集会となりました。

結果：会議を通じ産官学がそれぞれ連携を深めることで新たな枠組みが生まれ、具体性を持ったより良いまちづくりにつながるきっかけとなりました。



お茶の間会議の様子



お茶の間会議の様子

2. 事業名：呉の良いところ発見ツアー【～海光会(カイコウエ)～】

日時：2005年8月21日(日)

場所：呉市沿岸部

目的：(対外)くれお茶の間会議で培った産官学の連携で、このまちに住む人々にこのまちの特色(良さ)の新たな発見と再認識していただき、もっとこのまちを好きになってもらう。

(対内)このまちに対して更なる意識向上し、メンバーそれぞれが、このまちに住む人々がもっとこのまちを好きになるよう各地域でのリーダーシップの発揮し行動する。

方法：今年、呉市は3月に「平成の大合併」の最終局面を迎え、25万人の人口となり様々な産業や伝統文化そして「ひと」が新しい「呉」として集約されました。このまちに住む人々が、この「まち」の現状を知り、自分たちが住むこの「まち」をもっと好きになっていくことが、「文化の継承」、いわゆる「呉らしさ」を生み出すものだと考えました。

このまちの現状を調べてきた結果、私たちが住むこのまちは「海軍で栄えたまち」だと言っても過言ではありません。呉JICが歩んできた歴史とともに、「焼け野原から復興を成し遂げたまち」と位置づけられます。

このまちには、皆さんがよくご存知の「大和建造の歴史」があります。これは、このまちを挙げての大きな産官学の結集があったからこそ、はじめて造り上げることができたのです。この各分野の大きな結集は、国の政策ではありましたが、呉のもつ特殊な地形、古来から培われてきた船造りの礎に加えて、それまで成し得なかった新しい技術や工法、新しいシステムの開発を生み出したのです。このように「産官学の結集」は、「大和」を生み出したように、それぞれが単独では成し得る事ができない、新しい「呉らしさ」を生み出すことができる可能性を秘めています。

本年度は、この「産官学の結集」を通じて、より多くの人々が関わる事ができる基盤と仕組みづくりを行いました。

このまちに住む人たちとともに、企業には地域貢献と社会的責任を、行政には仕組みづくりの支援とまちの生きた意見を政策に反映していただき、学術機関には斬新な夢やアイデアと文化の継承という役割を認識いただく為に、そして私たちJICは、それぞれの機関の求心力・推進役となって、このまちをより良い方向に導かねばなりません。

そのために、私たちは、この時代に生まれた責任ある世代として、これまでの歴史や文化を大切にしながら、新しい「呉らしさ」をつくることで、このまちのことを真剣に愛する人を増やすために、考え行動していかなければならないと考えました。

まず、本事業を行うまでの経緯として、「くれお茶の間会議」と題して、計6回の会議で、産官学の方々にご協力頂き、このまちに対してのさまざまな意見を出し合い協議し、この会議以外でも各地域の人々を始め、行政やあらゆる企業の多くの方々ともまちづくりについて協議してきました。

呉市は合併により、広域になり、中四国で一番長い海岸線に囲まれるように豊富な自然と各地域の特色や良さを今までに増して得ることが出来たのですから、これを記にこのまちに住む人々が自分達の住むこのまちをもっと好きになるために、「くれお茶の間会議」を通じ、産官学の方々に参加頂き、このまちのことを真剣に考えゆく中で、まずはこのまちの良いところが沢山あるのだから、このまち

に住む人々にも実際に行って感じて頂くことが必要だということを認識しました。

当委員会でも実際に各地域に事前に足を運び、豊富な自然を堪能し、このまちに長年住んでいながら、行ったことのない地域、その地域で観光スポットを含むどんな良い所あるのか、どんな人々が生活しているのか、さまざま発見をしてきました。

その中で一番大きな発見として、行ったことのない各地域での人々とコミュニケーションをとることで、その地域の人々の温かさを実感し、そこから聞いた情報で新たな発見を多々することに感動しました。

そういったことはその地に行くことにより始めて実感し感動が生まれることなのです。それらを踏まえ、「くれお茶の間会議」で培った産官学の連携で、より効果的な方法を協議し集約することで、このまちに住む人々にも実感して頂ければ、このまちの事をもっと好きになることに繋がると考えました。

「くれお茶の間会議」で培った、産官学の連携で、このまちに住む人々にこのまちの特色（良さ）の新たな発見と再認識していただき、もっとこのまちを好きになってもらうことを目的とし、各地域へ足を運び、新たな発見と再認識ができる企画をツアーとして市民に参加して頂きました。

具体的な内容は、「くれお茶の間会議」で企画・提案して頂いた意見やアイデアを元に、参加者皆様でより効果的になるよう考えて頂いたものを集約し、それを各地域を回るときに関わる産（企業）に賛同・協力をお願いし、官（行政等）にも協力して頂きながら具現化し、それらを実践しました。

このツアー（事業）の内容としては、8月21日（日）乗物としてフェリーを用いて、合併により瀬戸内海一位の沿岸部を誇るまちを海から見る呉市を満喫して頂きました。

そのフェリーの一階部分をフリースペースとして活用し、参加者全員に呉のまちにはこんな物があったという新たな発見や、良い所、歴史等々を、クイズや映像などを交えて実感して頂きました。

ツアー途中には蒲刈町の「県民の浜」にフェリーを着岸し、そこでは海上自衛隊が毎週金曜日に艦食しているカレーライスを海上自衛隊呉地方総監部にも協力して頂き、参加者の方々に味わって頂きました。これにはもちろん蒲刈町の多くの地元住民にも協力して頂き、合併により一つのまちとなって、地域との交流も出来たと確信しております。

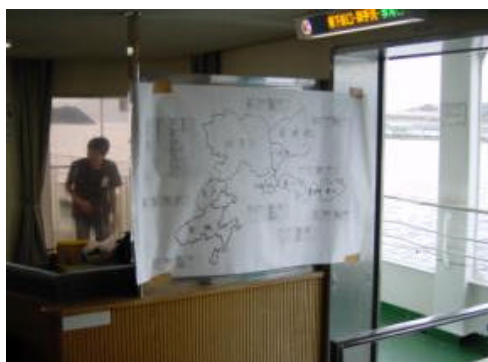
参加者の皆様にはバックプリントに行書で「呉」と入れたTシャツを全員が着用し、同じまちに住む仲間意識を統一して頂きました。

結果：このまちの良いところなど、新たな発見と再認識することにより、このまちに対して関心度が深まり地域への愛着心が増し、夢と誇りをもてるまちになります。

このまちに住む人々が、もっとこのまちを好きになったら、このまちのことをより真剣に考える人が一人でも多く増え、各地域をはじめとし、合併により更に多くの人々・広い地域になった今、このまちに住む人々はコミュニケーションが深まり、人と人との交流が一層増し、新生呉市というまち全体が更なる活気に満ち溢れたまちに変化していくことにつながる。

この事業を通じ得た、伝統や歴史、このまちの良さを今後、継承し続けていくことで、このまちに住む一人でも多くの人々が、もっとこのまちのことを好きになっていきます。

本事業にご参加頂いた市民の方々のご感想と意見としましては、日常生活において、自分達の住む地元を振り返るということを機会がないとあまりしていなかったため、このツアーに参加して、今まで知らなかった新たな発見や、再認識することができ、これから周囲の人や子供たちに伝えていきたい。更に、今までは合併といっても、新聞などで目にするだけで、なんら変わらなかったのに、ツアーで広域になった呉市というのを地域の人々と触れ合うことで、その地域の人柄や良さなど実感できて良かった。とのうれしい言葉をいくつも頂くことができました。





3. 事業名：『～呉の未来に向かって～』

サブタイトル；呉市長選挙 ローカル・マニフェスト型 公開討論会

日時：2005年10月15日（土）

場所：呉市体育館

目的：（対外）このまちに住む市民に対して、このまちの行く末を考えるきっかけを与え、行動することによって、このまちに住む人々がもっとこのまちを好きになる。
（対内）JCメンバーは、社会的責任を自覚する地域のリーダーであり、公益の立場からリーダーシップを発揮する。

方法：第1部として、早稲田大学大学院（元三重県知事）の北川正恭教授による講演を行いました。演題は「ローカル・マニフェストとは・・・？」です。世間的に、マニフェストという言葉は定着してきつつある中、マニフェストとは何か？さらにローカル・マニフェストとの違い、これがなぜまちづくりには必要なのかというポイントに重点をおき、このローカル・マニフェストによってどのようにまちは変化していくかという内容でご講演頂きました。

「北京で一羽の蝶が羽ばたけば、ニューヨークでハリケーンが起る」 引用

第2部として、呉市長選挙立候補予定者と表明されている小笠原氏と小村氏の2名をパネリストとしてお招きし、コーディネーターとして、同じく早稲田大学大学院（元三重県知事）の北川正恭教授とコメンテーターとして、県立広島大学の吉川富夫教授をお願いし、討論会を進行して頂いた。

各パネリストには事前にローカル・マニフェストと、呉市における現状認識と問

題点を質問事項として、あらかじめ提出して頂き、それらを元にコーディネーターによる質問形式で討論会を行いました。各パネリストに新生呉市に対する将来の展望を語っていただく中で、ローカル・マニフェスト型公開討論会として、政策やビジョンを発表して頂き、財政を確保するためにはどうすれば良いか？など、より具体的に市民に訴えて頂きました。

市民はこれからのこのまちに対して非常に興味があり、本事業中、運営を妨げる私語や野次は一切無く居眠りをする人も一人もいませんでした。ご参加頂いた市民は最良の姿勢で協力して頂いた結果、大変スムーズな進行が出来ました。

結果：本事業は社団法人呉青年会議所が中心となって、そして呉のまちの多くの市民の方々のご支援ご協力を賜り開催することが出来ました。そして、本事業にご参加頂いた数多くの市民の方々が、今後一人でも多くの方にこの事をお伝えして頂き、このまちに住む一人でも多くの方がこのまちのことをもっと真剣に考え、もっと関心をもつことができれば、呉というまちが更に良くなっていくと考えます。このまちをもっと好きになるために、市民の皆様と一緒に、より良いまちづくりを目指したいと思います。



左から

委員長 寺下正博
小村和年 氏
委員 中谷
小笠原しんや 氏

左から

理事長 金原一次
早稲田大学大学院教授（元三重県知事）
北川正恭 氏
県立広島大学経営情報学部教授工学博士
吉川富夫 氏
委員長 寺下正博

情熱のひとづくり室

室長報告

室長 奥原 誠次郎

『情熱のひとづくり室』と言う名のもとに活動してきた一年。振り返れば、ひとづくり活動を通じての“自分づくり”という一言です。

当該室は、将来の呉 JC そして呉市を支える稀有なる人材の発掘と創造を念頭に、児玉委員長率いる『情熱ある共生のまち創造委員会』と、櫻井委員長率いる『アカデミー委員会』の2委員会体制にて、“本質的論点について”はずすことなく議論と活動を続けること目して参りました。

『情熱ある共生のまち創造委員会』では、20歳前後の呉市在住若者達を対象に、彼ら自身が能動的にまちづくりに取り組む仕掛けの事業を敢行、通して得られる貴重な経験と意識を積み重ね、若年層ボトムアップの活力あるまちに繋がる人材育成プログラムへのトライアルを試みました。温度差の違いや斜に構える若者達と一緒に、数々の会議やプログラムを経て、9月に実施しました「Public Wave」の完遂へと漕ぎ着けた経緯には、公私に渡っての関わり合いを想像以上に持つことが要求され、参加若者諸子の意識変化や公共心に対する考え方に大きな影響を与えることが出来たと確信しております。今後も、このような体験型事業を通じて、若年層のパワーをさらに結集して、「我が町 KURE」に対する郷土心醸成へと繋げる一助となることを願って止みません。

『アカデミー委員会』では、例年にも増して厳しい新入会員開拓からスタートをせざるを得ませんでした。7名の新しいメンバーを迎えることができました。些少ではありましたが個性のある心強い新入会員に恵まれ、新入会員研修や担当例会を経て、晴れて正会員として仲間入りいたしました。また、次年度以降の会員拡大に繋がる事業「呉における青年の役割とは？」も多数の入会対象者に参加いただき、今後の JC メンバー開発への一助となったと考えております。

冒頭にも申し上げた通り、年間を通じて両委員長を始めとして委員会スタッフ及びメンバーの皆様方の積極的な活動をもって、何とか重責を終えることが出来ましたが、振り返れば貴重な自分への財産を多く齎してくれた事に尽きる次第であり、小生にこの大役を任せ頂いた正副役員の方々に深く感謝し、一年間の報告と御礼に替えさせていただきます。

情熱ある共生のまち創造委員会

委員長 児玉 嘉則

委員会報告

現在の呉市の人口推移から今後10年間を予測すると、少子化に伴い人口は確実に減少し同時に高齢化が進むことは明白であります。また、社会全体の規範意識の希薄化、あるいはフェイス・ツー・フェイスの出会いを持たぬまま、人とのつながりを維持していく社会の標準化など、その利便性の陰で直接的なつながりの大切さも軽視されています。これらの環境背景の中、我々は何に着目しなければならないのでしょうか？

2005年度、情熱ある共生のまち創造委員会では「ひとづくり」を担当する委員会として、これからの呉を担う世代である若手世代（15歳～22歳くらい）に対し、「夢を描くすばらしさ」や「志をもつ素晴らしさ」を実感して頂くことが最も大切であると考え、「知り・気づき、行動する」をスローガンに一年間活動して参りました。

その中で特に重要視したのは、「若手世代の参画意識」と「何に気づきを与えるか？何を共に気づくか？」を明確にすることでありました。与えられた事業に参加するばかりではなく、自らの発想で、自らの思いを具現化することが大切なのです。その為に、アドバンスクルーミーティング（若手世代11名で構成される）という会議体を設立し、繰り返し討議を行い、自立性、創造性、協調性を養い、9月には集大成として、「新しい呉らしさの創造」をテーマにした「ザ・パブリックウエーブ2005」を開催致しました。

我々と共に活動した若手世代は、自分の考え方や夢、そしてしてみたいと思うことをほんの一部でもだれかと共有したり、必要としてくれる人のためにつかうことで、公共心が芽生え、身勝手な主義主張ばかりではなく、自分のやるべきことを主張できるようになったと確信しています。

最後になりますが、ひとは、生きていく過程で、親や先生から色々なことを教わります。しかし、本人が、「なるほどこの事は、親や先生が言っているようにしなければいけない。」と心から思わなければ身に付きません。このように、「ひと」に**気づきを与えることが「きょういく」**であり、「ひと」に色々なことに**気づいて頂く機会をつくる事が「ひとづくり」**であるのです。「個々の人と人とお互いの多様性を認め合い、そして人と社会の調和を計り、それぞれが補完しあうよう指向するべくネットワークのコアとしてシンクタンク的な役割をなす」ことが、地域における呉青年会議所の大切な役割なのです。その為にも、絶えず市民の青年会議所活動に対する反応を確認し、その活動に対して謙虚に見直しを行い、いかに効果的な事業を行えるかを絶えず模索する必要があります。1年間、私を支えてくれたスタッフ、委員会メンバー、現役メンバー、OBの皆様にお礼申しあげて委員会報告にかえさせていただきます。ありがとうございました。

事業報告

1. 事業名：情熱ある共生のまち創造事業（知る編）

日時：2005年3月26日（土）19：00～20：30

場所：シティープラザ・カンコー 4階

目的：今年度、当委員会の考える『情熱ある共生のまちの創造とは何か』を明確に提示し、
呉JCとしての果たすべき役割、JCメンバーとしての自覚と責任を促し、知り、気づき、行動する為の意識統一を行う。

方法： 理事長所信に挙げられた当委員会に該当するであろうポイントを整理。
委員長基本方針の確認（現状の具体的問題点の抽出と分析）
当委員会の目指すべき方向の提示（情熱ある共生のまちを創造する必要性）
当委員会の考える呉市が情熱ある共生のまちになる為の方法を提示
市民がまちづくりの楽しさに気づける仕組みづくりの提示
JCとして果たすべき役割、メンバーとしての自覚と責任を促した
当委員会年間計画の提示

結果： 当委員会の考える『情熱ある共生のまち』の創造とは何か？を提示することでメンバーに対し活動目的、目指すべき方向性の理解を深めた。
外部に我々の考え方を伝える重要性を熟知し、同時に団体としての果たすべき役割、JCメンバーとしての自覚と責任を共通認識としてご理解頂いた。



2. 事業名：情熱ある共生のまち創造事業（気づく編）～情熱世代～だべり場 in 呉

日時：2005年5月15日（日）14：00～16：00

場所：大和ミュージアム内大和ホール

目的：（対外）情熱ある共生のまち創造事業『知る編』で立てた仮説を基に、我々の目指すべき方向を講師の代弁、コーディネートにより効果的に発信すると同時に、対象とする市民（若手世代）の意見を引き出すことで、今後の事業に参加し、知り、気づき、行動するすばらしさを実感するための動機付けを行う。
（対内）本事業に市民と共に参加する事により、JCメンバーとしての自覚と責任を促し、今後の活動に対する更なる意識の向上を図る。

方法：横山雄二氏を外部協力者とし、15歳～22歳の若手世代がステージ上で輪になるよう着座し、事前アンケートの結果に対し討議し、同世代意識の現状調査及び、あるべき姿の考察を行った。

結果： 若手世代に自分の考えを自由に発言頂き、同時に呉 JC の考え方を伝えることができた。最終的には公共心を持ち、自分たちはこんな事をやってみたい、やってみようという意識作りできた。

呉 JC メンバーにとりまして、若手世代の考え方を聞き、コミュニケーションを計れる場であり、同時に団体としての果たすべき役割、メンバーとしての自覚と責任を更に促し、更に高い意識で率先して行動する意識付けを行えた。



リハーサル風景



大和ミュージアム前での宣伝活動の様子



受付の様子



会場の様子（参加者に意見をもらう横山氏）



会場の様子



会場の様子

3. 事業名：情熱ある共生のまち創造事業（気づく編）ドラゴンクレスト

日時：2005年6月26日（日）13：30～16：30

場所：呉市内（中心部周辺）

目的：（対外）気づき編（だべり場 in 呉）で得られた成果をもとに、参加者（若手世代）同士の更なる相互理解を深めるのと同時に、呉の文化、歴史などの探索を通じて呉らしさの再発見を行う。

（対内）呉の文化、歴史などの探索という手法を通じ、参加者（若手世代）と、共に汗し、触れ合うことで、彼らの生の意見、感性などを自然に感じ取れるのと同時に、それらを通じJCメンバーとしての更なる自覚を責任を促す。

方法：若手世代とJCメンバーの混合チームをつくり、オリエンテーリング形式にて、呉の歴史、文化が感じられる場所の探索を行った。

また、それぞれのチェックポイントでは、若手世代との交流を目的として、キンボール、メロンパン早食い、長縄飛び等を行った。

ゴール地点では古きを知り新しきを創造する大切さに触れ、同時に今後の事業へ若手世代の参加を要請した。

結果：呉の歴史、文化に触れることを通じて、呉の古き良き時代を感じられた。共に汗し、交流を計ることで、若手世代、JCメンバーの懇親が計れた。新しきを創造するのは、すべて自分たちの志にあることを理解できた。



4 . 事業名：情熱ある共生のまち創造事業（気づく編）パブリックって何？

日時：2005年7月30日（土）14：30～16：30

場所：呉市きんろうプラザ大会議室

目的：（対内）自己主張ばかりではなく、同時に相手を理解し、公共的視点に立ち、やるべきことを主張できる若手世代の育成を行う。

（対外）若手世代のパフォーマンスを通じた情熱（自己主張）を受け止めつつ、共に『公共的視点』を持つ大切さを再認識することにより、JCメンバーの更なる自覚と責任を促す。

方法：同事業『行動編』に向けて、当委員会と共に協働でミーティングを進めている、クルーメンバー達の活動状況報告並びに、今後の課題を顕在化し、メンバーからも意見を頂く形で進化した。

クルーメンバー自らによる、これまでの活動報告および、今後の課題をプレゼンテーションした。

結果：クルーミーティングメンバーの意識を高め、よい一層の自覚を促せた。

JCメンバーにクルーミーティングの活動の理解を深めることができた。

幅広い意見を徴収することができ、今後の活動の礎となった。

若手世代のやる気、意識を感じ、JCメンバーの意識を喚起できた。



5 . 事業名：情熱ある共生のまち創造事業（行動編）ザ・パブリックウエーブ 2005

日時：2005年9月17日（土）16：00～20：00

場所：呉市総合体育館 オークアリーナ

目的：（対外）従来の座学形式ではなく、実践形式での育成カリキュラムの遂行を通じて、より楽しく、より沢山の参加者へ、公共性への理解、及びまちづくり活動を実施することへの重要性を強くもたらすことで「我がまち呉」に対する闊達な市民活動の助成を促す。

（対内）若手世代のパフォーマンスを通じた情熱（自己主張）を受け止めつつ、共に『公共的視点』を持って発信することの大切さ・楽しさを認識することにより、JCメンバーの更なる自覚と責任を促し、ひいては公益法人としての果たすべき役割を熟知する。

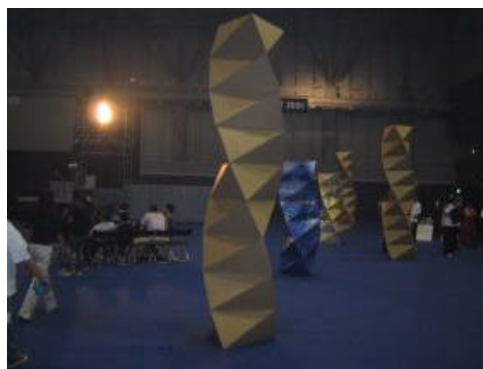
方法：第1部：（文化交流会） 16：00～18：00

- ・高校、大学主体によるPRブース出展
- ・各学校のクラブ活動、技術提示を行いつつ、参加者がそれを楽しく体験できるスペースの設営
- ・参加者全員で一体感、達成感を感じられるアトラクションの設営

第2部:(コラボレーションナイト) 18:00~20:00

・クルーミーティングメンバーを中心として企画したパフォーマンスステージ設営
結果: 次代を担う若者世代を触発することで、以後呉の街で活躍するであろう人材達の、まちづくりや公共心に対する意識レベルの向上につながり、魅力あり情熱溢れる街へと変貌が計れた。

若手世代のパフォーマンスを通じた情熱(自己主張)を受け止めつつ、共に『公共的視点』を持って発信することの大切さ・楽しさを認識することにより、JCメンバーの更なる自覚と責任を促し、今後の呉JC団体としてのあり方を検証ができた。





6. 事業名：情熱ある共生のまち創造事業（最終編）

日時：2005年10月19日（水）19：30～21：00

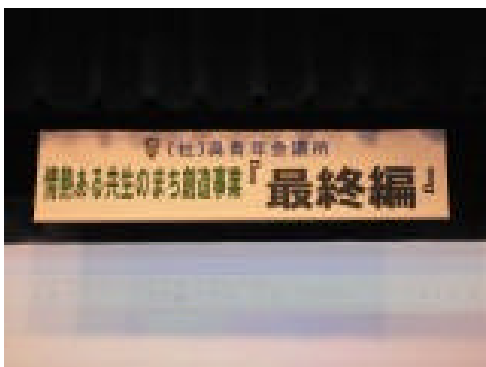
場所：ビューポート呉（大ホール）

目的：本年度、当委員会が立案したビジョン、及び、ひとづくり手法の仮説、各事業を通じて行ってきた検証事項を顕在化し、振り返ると共に、今後のひとづくり手法への礎とする。

方法：今年度、当委員会が目指したひとづくりとは？ 事業風景の写真などを元にフラッシュバック。

成果と反省点を顕在化し、次年度への引継ぎ項目を提示。

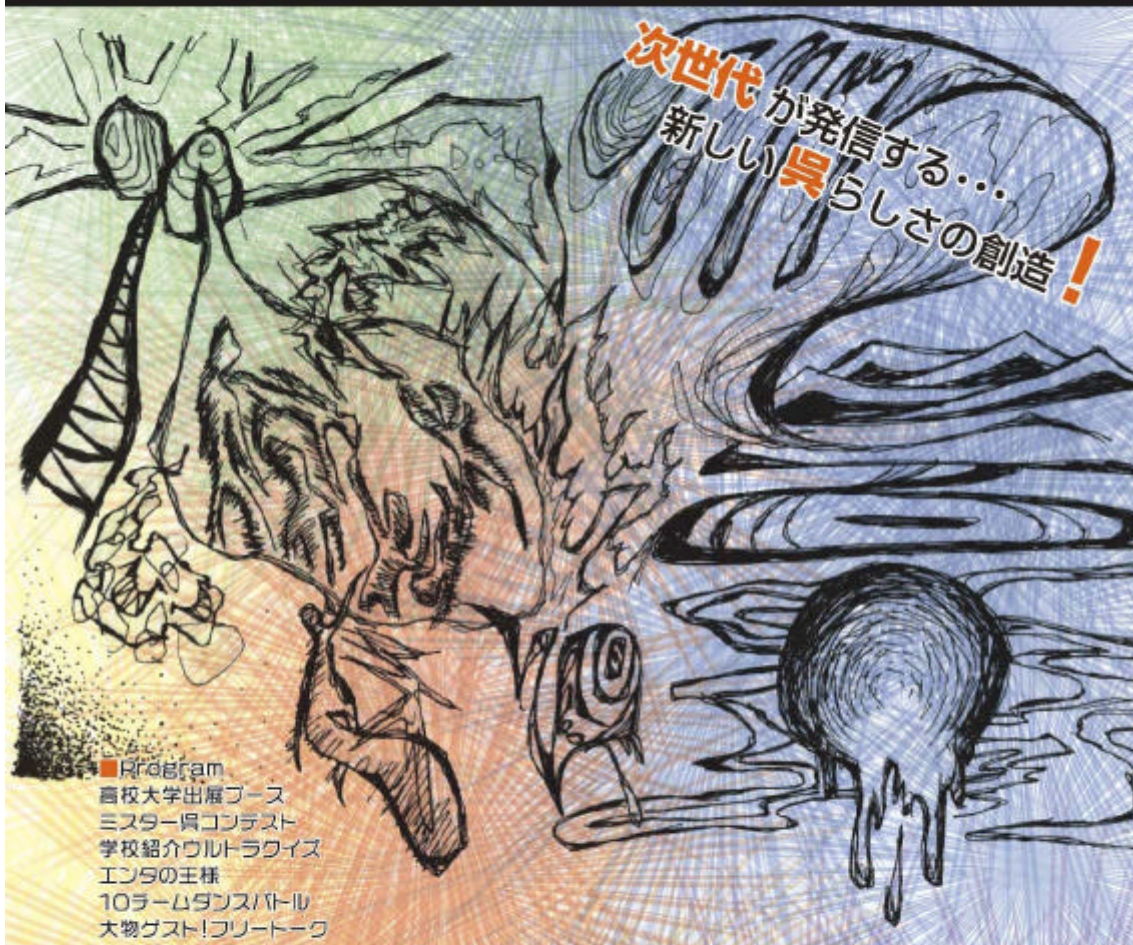
結果：今年度行ってきた対外・対内を交えたひとづくり手法の仮説、検証方法、及び各事業おのこの成果を今一度総合的に振り返ることにより、成功要因、失敗要因を顕在化し、今後に引き継ぐことができた。



THE PUBLIC WAVE 2005

スクールブース&ダンスバトル!

2005.09.17 17:00 START AT OAK-ARENA



次世代が発信する...
新しい呉らしさの創造!

■Program
高校大学出展ブース
ミスター呉コンテスト
学校紹介ウルトラクイズ
エンタの王様
10チームダンスバトル
大物ゲスト!フリートーク



アクセス
電車 山陽線「JR呉駅」から徒歩7分
バス 呉市営バス「東安定期前」バス停から徒歩4分
山陽自動車道 西条1.Cから呉方面へ約45分

THE PUBLIC WAVE 2005

呉をもっと好きになる 忘れられない夜になる...

入場無料

日時 2005年9月17日(土) 17:00~20:00 開場16:45
場所 呉市総合体育館オークアリーナ
広島県呉市広大新聞1丁目7-1 TEL(0823)74-0909

主催 社団法人呉青年会議所/advance crew ~夏と海と女と呉と~

THE PUBLIC WAVE 2005 WEBサイト
<http://pw2005.tm.land.to/>

(社)呉青年会議所 WEBサイト
<http://www.kure-jc.or.jp/>

■問い合わせ先
社団法人呉青年会議所 事務局
広島県呉市本通2丁目6-3
商工会議所ビル5F
TEL(0823)21-1081

アカデミー委員会報告

委員長 櫻井 隆晶

委員会報告

本年度アカデミー委員会ではJCの三信条、「修練」「奉仕」「友情」とはなにか？また呉青年会議所における三信条とはどうあるべきか？どういうものか？を考えながら、呉青年会議所における5年後、10年後の人財づくりと「パラノイア」の育成を念頭においた仮入会会員にむけてのカリキュラムの作成、そして事業を実施してまいりました。

振りかえってみますと一番はじめに「呉における青年の役割とは？1」で先輩の講演に主催者側にもかかわらず多いに感動し、その後メンバ-確保の難しさに涙し、入会申し込み面接時においては緊張に足を震わし、仮入会員セミナーにおいてはカリキュラム作成に苦悩し、セミナー実施時にはともに汗を流し感動を味わい、仮入会会議では仮入会員のメンバ-に呉JAYCEEとはこうあるべきだ（自分以外の誰かの為に！！）と諭しつつ自らも自問自答し、新入会員担当例会におきましてはハラハラ、ドキドキ、胸を震わし、まるでわが子の晴れ舞台を心配する親の気持ちと同等かそれ以上の感慨を味わいつつ、「呉における青年の役割とは？2」で次年度に仮入会候補者の引継ぎをお願いし、本年度この委員会の役割をなんとか無事はたしたものと確信しております。

気がつきますと新入会員の為にしかけた数々の事業（中には稚拙なものになってしまったものもありましたが）や会議ではありますが、しかけた委員会メンバ-とともに「修練」し「奉仕」し、ともに成長することができ、そしてそのうえで同士としてお互いが認めあう「友情」がはじめて成り立つということをダイナミックに体感することのできた1年間でありました。

またアカデミー委員会は、この年度だけでその成果は出ないと感じます、本年度の新入会員とともに切磋琢磨しつつ「明るい豊かなまちづくり」を行いつづけてこそ呉青年会議所のJAYCEEとして存在意義があるのだと考えます。

最後になりますが1年間、私を支えてくれたスタッフ、委員会メンバ-、現役メンバ-、OBの皆様にお礼申しあげて委員会報告にかえさせていただきます。

皆さん、どうもありがとうございました。

呉青年会議所、万歳！！

事業報告

1. 事業名：新入会員の募集

日時：年間を通じて

場所：呉市全域

目的：(社)呉青年会議所の会員拡大

方法：会員全員による直接面談による募集

結果：2005年度は7名の仮入会申込みを受け、2006年度以降へ繋がる入会候補者と面談ができた。

2. 事業名：「呉における青年の役割とは?1」

日時：2005年2月9日(水)19:00~21:00

場所：呉市きんろうプラザ3F和室

目的：仮入会候補者に対して、呉JCの活動内容の紹介とともにその存在意義と「呉のまちに対する役割」を、事業を通じて感じ取って頂き、入会意欲と入会意義を強固にする。

方法：JC活動の説明及びメンバーとのディスカッションを通じてのJC活動体験と講師による講演。

結果：入会候補者19名、現役会員41名、その他2名の計62名の参加を頂き、そのうち5名の入会手続きまで進めることができた。また講演内容も非常に好評であり、外部参加者に対して呉青年会議所に対する理解を深めていただく事ができました。



3. 事業名：入会申込者面接

日時：2005年3月15日(火)19:00~20:30

場所：商工会議所ビル8F

目的：入会申込者に対して面接を実施し審査委員会における審議査定の一助とする。

方法：スポンサー1分間、申込者3分間のスピーチを行い、その後に審査委員による質疑応答。

結果：7名の入会申込者の参加。厳粛な雰囲気の中で、審査を進めることができた。

4 . 事業名：仮入会オリエンテ - ション

日 時：2005年3月30日(水) 19:00~21:00

場 所：呉市きんろうプラザ中会議室

目 的：仮入会員に青年会議所活動の概略、基礎知識、今後のスケジュールなどを説明する。

方 法：アカデミ - 委員会スタッフ及び委員会メンバ - による、説明と講話で、青年会議所の概略、基礎知識、振舞い・正会員になれるまでの本年度のスケジュールと取組姿勢について、より伝わりやすい内容で進めた。

結 果：バイブルリファイルサイズの仮入会員手帳を資料として配布し年間を通して確認できるようにし、端的且つ的確に団体説明や活動説明を実施することができた。



5 . 事業名：第1回仮入会員セミナー『共生の章』～徹底した「奉仕」とはなにか～

日 時：2005年4月13日(水) 19:00~21:00

場 所：呉市きんろうプラザ中会議室

目 的：仮入会員に青年会議所会員として相応しい知識・技能・経験を習得して頂く。

方 法：PIPプログラムやBTプログラムなどを利用し、「個と公」におけるそれぞれの「理想」を抽出し、Jayceeとして「個」と「公」のバランス感覚を持つ必要性や、「公」の理想として持つべき「くれをボランティアマインドに満たされたまちにすること」の重要性を認識いただき「我、今何をなすべきか」を、各自に考えていただきながら習得していただき、青年会議所活動をする上での時間管理の大切さを認識・実践いただくようなプログラムを実施しました。そのうえで(社)呉青年会議所の一員としての最初の心構え(初心)を決意表明して頂きました。

結 果：プログラムをとおして各自が持った気付きにより、主体的に決意表明を行って頂きました。各々の「公」に対する意識を高めていただいたことで、今後の青年会議所

活動において自らの指針の一部になったと考えます。また、時間の有効利用に関しても十分意識をもってもらえたと考えます。

6. 事業名：第2回仮入会員セミナー『決断の章』 ～徹底した「修練」とはなにか～

日時：2005年6月4日(土)10:00～5日(日)13:00

場所：江田島市 品覚寺(ほんかくじ)・海上自衛隊第一術科学校ほか

目的：仮入会員に青年会議所会員として相応しい知識・技能・経験を習得して頂く。

方法：1泊2日で江田島でのセミナーを実施。プログラムとして3-4人の班編成にて五省ウォークラリーを行い同時にJIC基礎クイズを行った。その後自炊にて調理、夕食後、板垣住職の講話を拝聴、品覚寺の蔵書を閲覧した。

居酒屋の青春の後、本堂にて就寝、翌日は境内・本堂・台所等の清掃後、安芸能美簡保センターにて入浴を行い、教育参考館の見学を行い、過去の若者たちの遺書や遺品等の展示品を見学しました。閉校式は海上自衛隊の呉地方総監部管理部総務課広報係 藤田准尉のご好意により大講堂にて厳粛な雰囲気のもと行った。

結果：創設期の使命感に溢れたJayceerしさを呼び起こすべく、命をかけてこの呉の、またこの日本国の為に散華された過去の英霊達(青年)の心情、決意や勇気を体感いただき、「我、今、何をなすべきや」を実践していくための決意を固めていただきました。また1泊2日の日程にて集中的に行ったセミナーで、ウォークラリーや居酒屋の青春を通して、仮入会員同士及び仮入会員と現役メンバーの結束を深めることができた。





7. 事業名：第3回仮入会員セミナー『同志の章』 ～徹底した「友情」とはなにか～
日時：2005年7月28日(木) 19:00～21:00
場所：呉市きんろうプラザ2F大会議室
目的：仮入会員に青年会議所会員として相応しい知識・技能・経験を習得して頂く。
方法：3つのプログラムで構成。「我、今、何をなすべきやゲ-ム！」でチ-ムビルディング(協力ゲ-ム)を行いJCとしてのチ-ムワ-クを徹底して体得して頂きました。「結束のポンチ絵」にてJCにおける役割分担及びその責務をまっとうする心得を体得して頂きました。「まとめ」にてさらに第1回から第3回までのセミナーを通して委員会が伝えなかったことのまとめを講話。また10月例会へ向けての檄を飛ばし、10月例会以降、正会員になってからが本当のスタートであることなどを、委員長が伝えた。
結果：仮入会員同士の「結束」を深め、「志を同じうすることの難しさ」を理解していただき、10月の仮入会員担当例会に向け意識の統一を図り、且つ士気を向上させることができた。



8. 事業名：10月例会（新入会員担当例会）

日時：2005年10月3日（月）19：10～20：20

場所：シティプラザカンコー

目的：インターン期間に習得した、青年会議所の基礎知識や会員として相応しい技能や振舞いを 実践により再確認しそれらを真に自分のモノ（経験）にさせていただくこと。

方法：仮入会員全員による構想「わしらは呉がすきじゃけん（Kids innovation）」と題して呉における少子化問題について問題提起、データの解析、問題解決策を寸劇、パワー・ポイントを用いての仮入会員全員でのプレゼンテーションという形で発表いたしました。その後アカデミー委員会といたしまして委員長による仮入会員ひとりひとりへの講評、バッジの授与式、室長の講評を実施いたしました。

結果：インターンの最終課題ともいえる本例会の実施は、当日までの会議や準備において、青年会議所活動で重要なプロセスの多くを体感し垣間見ることのできる、実践的なプログラムであると考えます。これまで3回のセミナーで行なってきた「奉仕」「修練」「友情」の精神を育むことと併せて、正式入会後の初動体制を確実にとれるような新入会員として成長してくれた。



9. 事業名：呉における青年の役割とは？ 2 ～まちを変えよう！自分を変えよう！～

日時：2005年11月16日（水） 19：00～21：00

場所：呉市きんろうプラザ3F和室

目的：『呉のために何か考えていかねば！』といった意識のある参加者や、この事業を通じてそういった意識の芽生えた参加者に青年会議所への入会を促す。

メンバー自身も同世代の方々と意見交換をし、今後の活動のヒントなどを模索する。

方法：本年度の呉青年会議所活動の紹介をパワーポイントを使い行いました。講師の先輩より参加者に、「青年世代の地域における役割や、呉青年会議所の活動の魅力などについてのご講演をいただき、「若い世代がやらなければどうするのか！」といったように参加者の意識の啓発をしていただくと共に、「JCでは、その力を発揮していくことが出来る」といった部分を認知していただきました。事業参加者へアンケート調査を実施し、本事業の感想をいただくと同時に、それを基に参加者リストを作成しました、また本リストは入会候補者リストとして次年度以降に引き継ぐ。

結果：参加者にとってJCというものを身近に感じていただけたと確信しています。仮入会候補者に対して呉青年会議所に対する理解を深めていただく事ができました。

総務運営室

室長報告

室長 脇 泰能

当室の運営方針として知足(たるをしる)を念頭に入れて活動してまいりました。目的達成のために努力していく原点に今が幸せと思って進む場合とそうでなく進む場合とではプロセスにおける心の在り様に違いが生じ同じ結果になっても今後進むべき道が違ってくる考えたからです。

今年度は社団法人高知青年会議所との兄弟 JC 締結30周年の年でありました。宇都宮委員長率いる渉外委員会では「兄弟 JC とは何か?」という事を徹底的に議論し事業に臨んで頂きました。結果、相互が持ち得ていないものを吸収し合い互いに質の向上を図って行く者同士が兄弟であり最も相応しい青年会議所であるという結論に達しました。その事を踏まえながら式典、交流事業を進めていった為大変有意義な事業が行え高知青年会議所と更なる友情を深めることができ次年度以降も引き続き交流を図っていく必要性を感じました。副産物ではありますがこの事業を通して宇都宮委員会は結束が深まっていきました。

馬場委員長率いる総務委員会では1月から9月までの例会を理事長の所信に則ったサブタイトルを定めて講師を選定し、それを一連の流れとしてJCメンバーに必要な知識と意識をいろいろなテーマから現役会員に喚起することを行って頂きました。毎月上程で委員会にとってかなりハードではありましたが、講師の選定や対応など正副の皆さんの協力によって目的は達成できたものと確信しております。

毎年存在し続ける総務委員会に私自身初めて関りましたが知らなかった事が多々あり馬場委員長に逆に教えて頂く事が多く総務という仕事の大変さ、必要性を感じました。この1年思い起こせばあっという間に過ぎ去っていきましたが途中で知足を忘れ、ただこなしていただけという時期があり今後の反省点として生かして行きたいと思えます。

渉外委員会

委員長 宇都宮 公德

委員会報告

まもなく2005年度渉外委員会が終わろうとしております。当委員会は副委員長2名、幹事1名、フォロアーメンバー7名でスタートを切りましたが、年末を迎え振り返ってみますと、フォロアーメンバー2名もの退会者を出す委員会となってしまいました。時代の流れとはいえ、委員会運営に関して考えさせられました、とても残念に思います。また、委員長として副委員長・幹事をはじめとしてロムメンバーを振り回してしまったのではないかと反省もしております。

しかし、残ったメンバーで力合わせ事業を終えることができた今、得られたものも大きかったと思います。立場々々で得られたものは違いますが、次年度以降の青年会議所活動・自社での事業展開・個人の成長に大きく影響していくものと信じております。

年当初「人間力の向上」をスローガンとしてあげさせて頂いておりましたが、これからの成長を見て頂くことによってみなさまからの評価と考えていきます。いつの日か振り返りこの1年がきっかけとなったと話しができますようこれからも頑張ってまいります。

最後に、多くのロムメンバーの助けと周りの人たちの助けを頂き事業を終えることが出来ましたことにお礼を申し上げます。また、同委員会メンバー・合同事業を開催させていただきました高知JIC「集まれ総務委員会」のメンバーとは一生お付き合いしていきたいと思っております。本当にありがとうございます。

事業報告

1. 事業名：出向ってええよの～発見事業

日時：毎例会（2～10月）（休憩時間前7分間）

場所：シティープラザカンコー

目的：出向または出向者に対するLOM内の意識レベルを高める。

方法：例会時間の中で収集してきた各種大会・出向者の情報等をメンバー向けに発信する。

結果：出向される方の実情をロムメンバーに伝えることが出来ました。

各種大会の意味合い・情報・経緯を伝えることが出来ました。

出向者へのロムメンバーの意識を変えることが出来ました。

ロムメンバーに見られているという意識を出向者に感じていただきより出向先で活躍をして頂きました。

2. 事業名：呉JCってすごいよの～発信事業「アスパック編」

日時：2005年5月28日（土）21：00～24：00（現地時間）

場所：マカオフォーラム（ジャパンナイト）エンペラーホテル（ジャパン本部団）

目的：LOM全体として活動することによってのPR。

ASPACという場面でブースを出展する事により呉をPRする。

他LOとの交流を持つこと。

方法：アスパック（マカオ）に参加し、ブース出展を行なう。

結果：呉JCの日本JCの中での存在感を示すことが出来ました。

海外のJC事業に初参加の方もおり良い経験になりました。

出向していないメンバーも参加したことによって、出向されているメンバーの活躍を確認できました。



ジャパンナイトへの決起大会の様子（クレール）



ジャパンナイトへの決起大会の様子（クレール）



ジャパンナイト出店ブースの様子（ASPAC マカオ）



ジャパンナイト会場の様子（ASPAC マカオ）

3. 事業名：呉JCってすごいよの～発信事業「世界会議編」

日時：2005年10月27日(木) 21:00～24:00(現地時間)

場所：世界会議 会場(ウィーン)

目的：LOM全体として活動することよってのPR。

世界会議という場面でブースを出展する事により呉をPRする。

他L との交流を持つこと。

方法：世界会議(ウィーン)に参加し、ブース出展を行なう。

結果：呉JCの日本JCの中での存在感を示すことができました。

海外のJC事業に初参加の方もおり良い経験になりました。

出向していないメンバーも参加したことによって、出向されているメンバーの活躍を確認できました。



4. 事業名：各種大会の窓口案内

日時：京都会議(1/22～23)・ASPAC(5/27～30)・ブロック大会(6/12)・

サマーカンファレンス(7/23～24)・全国会員大会(10/1～2)・

JCI世界会議(24～29)

場所：京都(京都会議)・ASPAC(マカオ)・ブロック大会(福山)・

サマーカンファレンス(名古屋)・全国会員大会(姫路)・

JCI世界会議(ウィーン)

目的：LOMメンバー全員で応援する雰囲気作り。

方法：意識レベルを高める為のLOMツアーの企画。

結果：発送物の返信率が大変悪く、次年度はその意識に関する改善が必要だと感じました。

海外に関して日本JCの手配で渡航したメンバーは居りませんでした。

ロムナイトに関して、委員会メンバーが世話役でその他参加メンバーがお客さんというような意識をもったメンバーも一部おられたような感じを受け、そのあたりの意識を変えていく必要があるのではと感じました。

支払いに関しまして滞っている人がたくさん見られ、次年度以降は早めの回収催促をしていく必要性を感じました。

登録・参加者が偏っており、呉LOMとしてどのように対応していくか方向性が必要なのではと感じました。



京都国際会議場前（京都会議 開催会場）



JCI 役員団ご来訪（京都会議 LOM ナイト会場）



広島ブロック会員大会へのバスツアー



次年度ブロック会長決定の瞬間



広島ブロック会員大会 懇親会の様子



広島ブロック会員大会 懇親会の様子



名古屋国際会議場前（サマーコンファレンス会場）



国際アカデミー卒業生ご来訪（LOM ナイト会場）



コーディネーターとして活躍する奥原君



サマーコンファレンス LOM ナイトの様子

**5 . 事業名：社団法人高知青年会議所兄弟 J C 締結 3 0 周年記念事業
～あつまれ兄弟 J C in 高知～**

日 時：2005年9月24日(土)・25日(日)

場 所：スポーツ大会 高知総合運動場

例会・懇親会 (株)高知新阪急ホテル

目 的：社団法人高知青年会議所との交流。

方 法：兄弟 J C 締結 30 周年記念事業の協同開催。

結 果：高知 J C と呉 J C との間に現役メンバー同士の深い交流の場を持つことが出来ました。



坂本龍馬像



締結 3 0 周年記念事業の様子



締結 3 0 周年記念事業の様子



締結 3 0 周年記念事業の様子



締結30周年記念式典の様子



締結30周年記念式典の様子



締結30周年記念式典の様子



締結30周年記念懇親会の様子



締結30周年記念懇親会の様子



締結30周年記念懇親会の様子



懇親会終了後のスタッフ（呉・高知）の様子



締結30周年記念式典受付の様子

総務委員会

委員長 馬場 泰裕

委員会報告

2005年度 総務委員会では「百万一心」をスローガンに掲げ、呉青年会議所メンバーが心をひとつにできるような事業を活動の中心に据えて取り組んでまいりました。また、今年度は例年の総務系委員会が担当する事業に付け加えて、2月から9月までの担当例会部分を、理事長の所信に則った8つのサブタイトルを定めての講師例会として、その設営・運営を担当致しました。その中で呉青年会議所にとって重要なエッセンスである「誰のために、何のために行動していくのか」ということについての意識をメンバーの心に少しなりとも刻んでいただけたのではないかと思います。

例会というメンバーの意識を統一する重要な場所の設営と運営を担当するには、呉青年会議所の52年間の伝統を受け継ぎながら、53年目のエッセンスも加えていかなければならないという非常に重要な意義と責任が求められます。それには呉青年会議所の伝統とは何か、守ってきたものは何かを知らなければならぬし、今年度の考えや行動もそれらはずさないうように取り入れていかなければならない。

今年度、果たしてそれらを100%実行できたかといえば、残念ながらそうではなく、多くの反省点を残したように思います。しかし、それらは経験として後進に引き継ぎますし、それらに一生懸命取り組んでいく中で気づいたことは、総務委員会は呉青年会議所にとって、今までも、そしてこれからも必要不可欠な委員会であるということと、自分ひとりでは計画書や資料は書いても、何一つ実行できなかったであろうということです。私にとっては、よく言われる「やって当たり前のこと」をやることの難しさを心の底から実感した1年間となりました。

いま振り返ってみますと、最初の事業である次年度担当例会でタイムスケジュールが大幅に狂ってあせった事や、7月例会では川淵キャプテンに來訪戴く際に台風で飛行機が飛ぶかどうかで対応に右往左往したこと、気がつけば臨時理事会と11月を除く全理事会で案件を上程していたことなど、まだまだ数え上げればキリが無いほどの経験と思い出と気づきをたくさん頂きました。そしてそれらで悩んだり、迷ったりしたときに力になって下さった高塩副理事長、「馬場君なら大丈夫よ～」と励まして下さった脇室長、いつもの確な意見と素早い対応をしてくれた増木副委員長、スタートダッシュの一番苦しいときに力になってくれた板谷副委員長、面倒なことを頼んでも「わかりました」と行動してくれた平賀幹事、司会や受付、懇親会の設営に早くから来て手伝ってくれた委員会メンバー、そしてそれらすべてを温かく見守って下さいました全メンバーの皆様に対し、心から感謝とお礼を申し上げます。

1年間本当にありがとうございました。

事業報告

1. 事業名：例会の運営

日 時：毎例会

場 所：例会場

目 的：円滑な例会の運営

方 法：例会ごとに出席者の確認、受付、司会など通常例会のセレモニーを円滑に行い定時開会、定時閉会するように運営致しました。また、本年度は食事時間がないため、各委員会からのお知らせや報告をより詳しくメンバーにアピールするための「委員会PRタイム」を設けて、その調整等を行いました。

結 果：時間調整のままならないところもありましたが、メンバーのご協力のもと、厳粛で円滑な例会の設営と運営ができました。

2. 事業名：総会の運営

日 時：毎総会

場 所：総会場

目 的：円滑な総会の運営

方 法：事前に総会の案内と資料の用意などを行い当日は出席者の確認や司会などを担当。

結 果：円滑な総会の設営と運営が出来ました。

3. 事業名：JCボックスの実施

日 時：毎例会

場 所：例会場

目 的：JCメンバーとして、例会の出席に対して自覚と責任感を促し、会員の意識向上をはかるため。

方 法：受付へのJCボックスの設置

結 果：無届の欠席・遅刻が、かなり少なくなりましたが、根絶にはいたりませんでした。ただし報告の意識がメンバーの中にかなり浸透してきました。

4. 事業名：スローガン・垂れ幕作成事業

日 時：毎例会

場 所：例会場

目 的：理事長スローガンを例会、諸事業時に掲げ、メンバーに2005年度呉青年会議所の行動の原点を意識していただく

方 法：スローガンにふさわしい垂れ幕の作成

結 果：各種事業にも使用できるようにしていたが結果として毎例会開催時のみ使用しました。例会では理事長のスローガンをメンバーに意識して頂く事に役立ちました。

5. 事業名：委員会フラッグ作成事業

日 時：毎例会・各種事業開催時

場 所：例会場・各種事業開催場所

目 的：毎例会や各種事業に委員会旗を掲げることによって委員会ごとの団結を図り、会員個々の意識の向上を図る。

方 法：スローガンにふさわしい垂れ幕の作成

結 果：委員会の団結と意識の向上のための重要なアイテムとなり、また、各事業で使用されることで、呉青年会議所の意気込みを感じて頂けました。

6. 事業名：1月例会

日時：1月8日(土) 18:30～20:30

場所：シティプラザカンコー 4F 瑞雲の間

目的：年頭に当たり、来賓・特別会員の皆様をもてなし、会員相互の親睦と賀詞交換の場とする。

方法：会場設営と運営を行い、懇親会を含む例会の設営と運営を致しました。また、セレモニー中に金原理事長の意気込みを伝えるべく大書書きを行い、アトラクションとして正副理事長主催の水戸黄門を披露、和やかな雰囲気を作っていました。

結果：ご来賓の方々、特別会員の皆様と、現役メンバーとの懇親が深まり、またご参集頂いたすべての方と新年の門出を祝うことができました。



金原理事長による新年のご挨拶



スローガン『情熱』。情熱を持って書初め

7. 事業名：2月例会 テーマ「決心」

日時：2月7日(月) 19:35～20:40

場所：シティプラザカンコー 4F 瑞雲の間

目的：理事長の所信に則った、8つのテーマの1つ「決心」について講師例会を行い「自分以外の誰かの為に何かの為に一生懸命になる」呉青年会議所のメンバーとなって戴く為に必要な意識と知識を喚起するための一助とする。

方法：講師に木村隆司氏をお招きして講師例会を行いました。

結果：呉青年会議所のメンバーとして、「本気」で行動していかなければならないという意識を喚起できました。



2月例会講師 木村隆司氏



中野幹事による例会監事講評(偶数月担当)

8 . 事業名：特別会員総会及び懇親会

日 時：2月17日(木) 17:45～20:00

場 所：シティプラザカンコー 3F 鳳凰の間(半分使用)

目 的：効率的な特別会員総会の設営及び運営、特別会員の懇親及び現役会員との交流。

方 法：新旧の特別会員庶務幹事の方と連絡を取りながら総会・懇親会を設営・運営いたしました。

結 果：懇親会に関しては特別会員庶務幹事の主導の下、なごやかな雰囲気の中、開催することが出来ました。



特別会員総会・懇親会の様子



特別会員総会・懇親会の様子

9 . 事業名：3月例会 テーマ「流儀」

日 時：3月7日(月) 19:10～20:25

場 所：シティプラザカンコー 3F 例会場

目 的：理事長の所信に則った、8つのテーマの1つ「流儀」について講師例会を行い「自分以外の誰かの為に何かの為に一生懸命になる」呉青年会議所のメンバーとなって戴く為に必要な意識と知識を喚起するための一助とする。

方 法：講師に山形JC O B伊藤三之先輩をお招きして講師例会を行いました。

結 果：初心に帰り、「青年会議所とは何をやる団体であるのか」ということを常に念頭に置き、その時代にあった行動していくことこそJCの流儀であるという意識を喚起できました。

10 . 事業名：4月例会 テーマ「ひと」

日 時：4月4日(月) 19:10～20:23

場 所：シティプラザカンコー 3F 例会場

目 的：理事長の所信に則った、8つのテーマの1つ「ひと」について講師例会を行い「自分以外の誰かの為に何かの為に一生懸命になる」呉青年会議所のメンバーとなって戴く為に必要な意識と知識を喚起するための一助とする。

方 法：講師に塩川秀敏氏をお招きして講師例会を行いました。

結 果：「ひと」にとって最も重要なことは無償の愛であり、それを実践・浸透していくことが重要であるという意識を喚起できました。

11. 事業名：5月例会 テーマ「まち」

日時：5月9日(月) 19:10～20:20

場所：シティプラザカンコー 3F 例会場

目的：理事長の所信に則った、8つのテーマの1つ「まち」について講師例会を行い「自分以外の誰かの為に何かの為に一生懸命になる」呉青年会議所のメンバーとなって戴く為に必要な意識と知識を喚起するための一助とする。

方法：講師に特別会員の堀川保幸先輩をお招きして講師例会を行いました。

結果：「まち」というテーマについて、企業という観点からお話戴き、企業の発展してこそ「まち」も発展するなどのキーワードを戴きました。

12. 事業名：6月例会 テーマ「夢」

日時：6月6日(月) 19:25～20:20

場所：シティプラザカンコー 3F 例会場

目的：理事長の所信に則った、8つのテーマの1つ「夢」について講師例会を行い「自分以外の誰かの為に何かの為に一生懸命になる」呉青年会議所のメンバーとなって戴く為に必要な意識と知識を喚起するための一助とする。

方法：講師に特別会員の梶岡幹生先輩をお招きして講師例会を行いました。

結果：仕事は何のためにするのかを突き詰めて考えることで「真の目標=夢」を導き出す方法や、「夢=目標」を大きく持つ事の必要性など、主に仕事を通して夢の実現を目指すという具体的・現実的な講演を頂きました。



4月例会講師 塩川秀敏氏



5月例会講師 堀川保幸先輩



6月例会講師 梶岡幹生先輩



多賀幹事による例会監事講評(奇数月担当)

13. 事業名：7月例会 テーマ「挑戦」

日時：7月4日（月）17：00～20：45

場所：シティプラザカンコー 3F 例会場 4F 講演会会場

目的：理事長の所信に則った、8つのテーマの1つ「挑戦」について講師例会を行い「自分以外の誰かの為に何かの為に一生懸命になる」呉青年会議所のメンバーとなって戴く為に必要な意識と知識を喚起するための一助とする。

方法：講師に日本サッカー協会 川淵三郎キャプテンをお招きして講師例会を行いました。なお、本例会はオープン例会として「産・官・学」を中心とした外部の方にも参加戴きました。

結果：講演内容は、直接「挑戦」という言葉を多用しているものではありませんが、過去から現在、未来へと続くサッカー界のお話は、「挑戦」あるいは「挑戦に必要なこと」「挑戦することの意義」など様々な内容が含まれており、メンバーのみならず、参加していただいた外部の方にも、自らの理念や夢の実現のため、それぞれが志を持って「挑戦」することの大切さに気づいて頂くきっかけと成りえました。



7月例会講師 川淵三郎氏



オープン例会の様子

14. 事業名：8月例会 テーマ「連携」

日時：8月1日（月）19：30～20：30

場所：シティプラザカンコー 3F 例会場

目的：理事長の所信に則った、8つのテーマの1つ「連携」について講師例会を行い「自分以外の誰かの為に何かの為に一生懸命になる」呉青年会議所のメンバーとなって戴く為に必要な意識と知識を喚起するための一助とする。

方法：講師に広島国際大学 大学院教授の吉長成恭氏をお招きして講師例会を行いました。

結果：「連携」というテーマについて、大学の教授というエキスパートからソーシャル・キャピタルの概念や外国での取り組みなどさまざまな専門的な知識を頂きました。

15. 事業名：9月例会 テーマ「プライド」

日時：9月5日（月）19：20～20：33

場所：シティプラザカンコー 3F 例会場

目的：理事長の所信に則った、8つのテーマの1つ「プライド」について講師例会を行い「自分以外の誰かの為に何かの為に一生懸命になる」呉青年会議所のメンバーとなって戴く為に必要な意識と知識を喚起するための一助とする。

方法：講師に金美齡氏をお招きして講師例会を行いました。

結果：自らを高め、自信を育て、そしてそれを自ら守りぬくことが必要であるということや、「プライド」をもって生きていく人間こそ前進して行くことができることなどの講演を頂き、メンバーの意識を喚起できました。



8月例会講師 吉長成恭氏



9月例会講師 金美齡氏



例会の様子

16．事業名：創立記念日例会

日時：11月11日（金）18：30～20：30

場所：シティプラザカンコー 4F瑞雲の間

目的：社団法人呉青年会議所の創立53周年を特別会員の皆様とともに祝い、会員相互のさらなる懇親を図り、2005年度呉青年会議所の活動報告の場とする。

方法：(社)呉青年会議所の創立記念日に、特別会員と賛助会員の皆様をお招きして、懇親会を含めた例会を設営・運営いたしました。

結果：特別会員の皆様、賛助会員の皆様をお招きして、(社)呉青年会議所の創立記念日とともに祝うことができました。特別会員紹介では入会年度と歴代理事長の紹介をして、(社)呉青年会議所の歴史の重みを感じていただきました。また、懇親会中に本年度の活動をビデオにまとめて報告いたしました。つづいて2005年度報告として2005年度委員長に一言ずつ頂き、その後2006年度の理事役員の紹介を行うことで、次年度の体制を周知し、ご協力をお願いいたしました。

17．事業名：次年度担当例会

日時：12月4日（月）18：30～20：30

場所：例会場

目的：2006年度社団法人呉青年会議所の方向性と組織構成の確認を行う。

また、委員会メンバーの顔合わせを行い、次年度各委員会の出発点とする。
方 法：2006年度理事長所信・基本方針の説明と、組織構成の確認。委員会紹介。
結 果：2006年度規律ある組織の和推進委員会によりスマートに行われました。

18 . 事業名：2005年度 社団法人呉青年会議所 卒業式

日 時：12月17日(土) 17:05～17:50
場 所：シティプラザカンコー 3F 鳳凰の間(半分使用)
目 的：2005年度社団法人呉青年会議所卒業生の勲功を称え、敬意と感謝をこめて厳粛にお送りする。
方 法：厳粛な雰囲気の中で、卒業生の功績を称え、敬意と感謝をこめて式典を設営・運営いたしました。
結 果：事前の打合せ不足もありましたが、厳かな雰囲気の中で、卒業生のJAYCEEとしての功績を称え、現役会員はもちろんのこと、特別会員や卒業生のご家族にも印象に残る式典を行えました。

19 . 事業名：2005年度 社団法人呉青年会議所 卒業送別会

日 時：12月17日(土) 18:30～20:45
場 所：シティプラザカンコー 3F 鳳凰の間(半分使用)
目 的：社団法人呉青年会議所に功績ある卒業生の皆様を称え、思い出に残る送別会を運営する。
方 法：卒業生の誕生から現在までの写真とプロフィールをご紹介しながらバーจินロードの上をまっすぐ入場して頂き、参加者全員が卒業生に対し、より親近感を持って頂きました。また、次年度への引継ぎとしてバッジの交換とJC旗の引継ぎを行いました。アトラクションでは卒業生がこれまで青年会議所活動を行ってきた中でのエピソードをメンバーから聞きだし、それらを面白おかしく会場の皆様に聞いていただきました。つづいて卒業生から現役会員へのメッセージを頂き、退場はバーจินロードの上をご家族とともに退場して頂きました。
結 果：2005年度卒業生を参加者全員の胸に刻みつけ、思い出に残る卒業送別会にすることが出来ました。

専務理事報告

専務理事 海生 知亮

2005年度金原理事長のもと情熱をスローガンに掲げ活動してまいりました。専務理事という団体の運営を切り盛りしていく役柄ではありましたが無事役割をまっとうできたのも会員の皆様をはじめ特別会員の諸先輩方の温かい助言があったからと感謝しております。

公益法人を取り巻く環境は日々変化しており、特に2006年から施行される新公益法人法により我々の所属する社団法人格を持つ青年会議所も会計内容や活動内容をより精査していかなくは公共性のある公益法人として認められなくなるおそれがあります。こうした事から2005年度は従来の事務局とは別に財務運営会議という会議体を設けました。両方とも社団法人呉青年会議所の今後の目指すべき姿を念頭において、事務局長には特に会計内容の精査を、財務運営会議には特に活動内容を精査していただきました。特記すべき事は賛助会員制度の導入です。活動をPRし、多方面の広告塔として共に活動していけるよう今後も活用していただければと思います。

青年会議所には色々な役職があり、その役割を1年しか演じる事ができません。解かりやすく言えば組織の執行部が1年ごとに新しくなります。このことは他の団体と異なる部分であり青年会議所の特有な仕組みの1つです。執行部が変わると活動方法も毎年変わり、一見非効率にも見えますが、この団体で培った知識、運営方法などを各メンバーが会社、地域、家庭にもち帰りそれぞれの場所で発揮するという青年会議所の根幹である『まちのリーダーを育成する』ことから考えると実によくできたシステムです。

組織の活動目的は明るい豊かなまちを作っていくことであり、時代によって変化する明るい豊かなまちの概念に応じて活動方法を選択して実現するために行動を起こしています。役割は1年で終わりますが行動は今後も続きます。私は卒業してしまいましたが、今年培った多くの経験を元に、今後も明るい豊かなまちを作るために邁進していきたいと思います。できれば今年出会えた友と共に活動できることを願い、専務理事報告とさせていただきます。

財務運営会議報告

副議長 明田 周士

会議報告

財務運営会議は2005年度、あたりに設置された会議態で、当初以下のような目的の下組織された会議態であった。

- ・ 専務理事をサポートしていく
 - ・ 会議をスリム化していく
 - ・ 財務に関して事務局長との差 会計面に関しては使われていく部分を監査する
 - ・ 運営については社団法人として適正に運営にしているかに関して諮問していく
- また、会議の開催日時はこの会議態の性格上正副の後、直ちに開催されるものであった。

会議のメンバーは、正副経験者を中心に5人程で、正副会議での意見に対し諮問すると同時に特別な事柄に対しても助言や事業を行う会議態であった。

- ・ 2005年度会議のフローチャート
毎月 正副会議の後 一日おいて

その後2週間後 正副室長会議

理事会

- ・ 財務運営会議の諮問する5つの事柄
 - 「私たち」Cに対する社会のニーズとは何か」
 - 「私たちの取り組もうとしている事業はそのニーズに合っているのか」
 - 「その事業によってどのような成果が得られるのか」
 - 「私たちにはその事業を遂行する能力があるのか」
 - 「その事業によって」Cとしての強みを発揮できるのか」

以上、多くの先進的・規律に準じた事業に携わる中で、呉青年会議所の伝統と革新の両面を垣間見都外に均衡の状態の中で、の「賛助会員」と言う新たな枠組みが精緻に構築されたことは、図らずも法人改革を視野に入れた、呉青年会議所が内包する当然の動きであり、呉青年会議所の本質を垣間見た気がした。又、その事に参画できたことは今後の青年会議所活動において糧を得た貴重な経験をした一年であった。

事業報告

1. 事業名：理事スタッフ研修

日 時：下記方法参照

場 所：下記方法参照

目 的：メンバーの資質向上。

方 法：計2回の理事スタッフ研修会

第1回

日 時：2004年10月8日（金曜日）19:00～21:00

場 所：ビューポートくれ 3階 中会議室

内 容：呉青年会議所のスタンスについてー特異性についてー

1. NPO・NGOとの差についてーそれを通して下記の説明をする

（インターメディアリー「高性能なパイプ役としての主体的仲介者」
としての市民社会組織）

2. 各委員会が各公官庁、経済団体にコミットメントしていき、JCでしか出来ない市民運動を展開する。

3. 「まちづくり団体」としての本来の機能を充実していく。等

第2回

日 時：2004年12月3日（木曜日）19:00～21:00

場 所：くれビューポート 3階 中会議室

内 容：1. 理事長の代弁者、副理事長とのブレーストーミング

2. 各委員会経過報告（2005年度フローチャートと共に）をおこなった。

結 果：理事メンバーの資質が向上でき、各委員会においてメンバーの資質向上の一助となる。

2. 事業名：財務運営会議の開催

3. 事業名：財務改善研究会

日 時：毎月第一木曜日及び金曜日 また、緊急会議有り

開催回数 2004年10月～2005年度12月まで 計18回

場 所：シティープラザ カンコー

目 的：社団法人として有効な事業かを判断する。

方 法：毎正副会議の翌日もしくは翌々日に会議を開き討議する。

結 果：各委員会が行おうとしている事業に対して問題点等の意見を集約でき事業に反映できた。また今後の活動の一助とするべく賛助会員諸規定を新たに設定し賛助会員をスムーズに募集できるようにした。今後の活用に期待する。

事務局報告

事務局長 岡本 和幸

事務局長報告

公益法人に対する各種改革案が思案中であった2005年度ですが、2006年度はいよいよ新しい法案により社団法人格を持つ各地の青年会議所は公共性のある公益法人に向けよりいっそうの改革をしていかなければいけません。会員の減少に伴い、固定費（事務局経費）の削減がより急務になっていくことは明らかです。また施行された個人情報保護法により、今まで各種事業に参加していただいた方々の蓄積している情報や会員情報の厳正なる管理が厳しく求められていきます。とはいえ急に対応する事はどの団体においても難しく前もっての準備が必要です。2005年度はこの事を念頭において事務局運営を行ってきました。事務局長という立場上、他のロムの予算決算や運営の仕方を見せていただく機会が多々ありましたが、総じていえる事は呉青年会議所の予算決算会計はどのLOMよりも厳しく明確であったことです。これは52年という歴史の賜物であると再認識いたしました。

運営面では事務局家賃の削減、メールでの定期発送物の発行、事務局備品の管理の徹底等、当たり前の事ではありますが、経費削減と管理体制の強化を図ってきました。会議資料作成についても『提出資料を編集するのが役目ではなく、会議が出来る資料を作る事が役目である』という持論の元、提出資料に不備があると修正や再提出してもらい作ったため、資料配信がかなり遅れたことが多々ありましたが、事務局長権限で何のためにやっているのかを考え、教え、学びながら1年間邁進してまいりました。まだまだ頼りになるには程遠かったと思いますが今後ともさらに精進してまいります。

また今回、初めての試みとして事務局長として事業を持たせて頂きました。情報公開及び管理の一元化、会員情報の管理という目的のもと事務局の役割に沿った事業展開をしていこうとしましたが、従来の事務局運営もあり、かつての担当委員会時ほど役に立ったかどうかは今後の組織運営に評価を任せたいと思います。

最後になりますが、1年間じっくりと付き合ってくれた、柚原、杉谷、山下、相原セクレタリ - には感謝すると共に、今年つちかった事を今後の活動で思う存分発揮していただける事を願い、また卒業予定者という立場でありながら組織運営に関して今一度掘り下げて考える事を教えてくれた海生専務理事に格段の謝意を表し、事務局長報告とさせていただきます。

事業報告

1. 事業名：会員手帳及び事業計画書の作成

日時：1月

目的：青年会議所会員の活動、会員間の交流を円滑におこなう。

社団法人呉青年会議所の基本方針及び事業計画を会員ならびに関係諸団体に明確に示す。

方法：会員・特別会員には会員手帳として名簿と事業計画を一冊にまとめて配布し関係諸団体にはPDFで保管してある事業計画書を（印刷等で）配布する。

結果：社団法人呉青年会議所の基本方針及び事業計画を会員ならびに関係諸団体に明確に示すことが出来ました。また各種活動や会員間の交流が円滑におこなうことが出来ました。

2. 事業名：ホームページの管理

日時：年間を通して

目的：社団法人呉青年会議所という団体を情報公開の観点からホームページ上で公開するためにホームページを管理する。

方法：各委員会事業等を各委員会より情報提供してもらいホームページに掲載・更新する。

結果：情報公開の観点からの確に情報を公開でき、理事長挨拶を毎月載せる事や随時内容を更新する事で、社団法人呉青年会議所の方向性を内外に公開できました。

3. 事業名：事業報告書の作成

日時：2006年2月発行

目的：1年間の社団法人呉青年会議所の活動を検証し公開するため。

方法：年度末に委員会ごとの活動検証を提出していただき、冊子等を作成する。

結果：経費節減とデータによる情報の保管、管理の観点から冊子で公開するのではなくデータ（PDF）による公開にしました。

セクレタリー報告

袖原 弘明
杉谷 亮
山下 謹平
相原 新太郎

金原理事長をリーダーと考えたとき、我々セクレタリーは直轄のフォロワーです。今年、我々4人は「目指せ、最強のフォロワー」を行動指針に活動して参りました。金原理事長の「いまやらねばいつできるわしがやらねばたれがやる」というスローガンは「リーダーは上に立ってマネジメントだけをするのではなく、フォロワーと共に前進し、同じ目線で行動することだ。」と理解しました。そして金原理事長には「情熱」という信念があり、その行動と信念が自然とフォロワーを生み、そこからリーダーが生まれていくのだと思います。

我々はJ.Cのメンバーであると同時に会社、地域に帰れば誰もがリーダーです。私達はセクレタリーという役割を通じて私達なりに、好ましいリーダーとはどんなリーダーなのかという論議を重ね、個人差はあるがそれぞれの頭の中でプロトタイプを形成しています。

その中で共通した思いはいつまでも指導者として君臨するリーダーは、フォロワーの自立を妨げる。フォロワーを支配・統制するのではなく、自立に向けてフォロワーを育てていくリーダーが求められているということです。

そういう意味ではJ.Cの単年度制や各事業に携われる我々の環境は素晴らしいと思います。日本という国、J.Cという組織、我々の会社などあらゆる組織は存在価値を創造し、未来永劫続いて行かなければならない。たとえ一時的なリーダーシップにより事業や改革に成功したとしても、そのリーダーが組織を去れば、再び、かつての体質に逆戻りする。

今年のプロ野球界でもパレンティン監督による自律型組織で日本一になった「千葉ロッテマリーンズ」も選手の判断に任せエンパワメント（権限委譲と支援）という手法で成功したことは記憶に新しいです。

これからはリーダーになりたいと思える環境、そして、そうした意欲ある人がリーダーとして組織の環境を整備することが、我々に求められていると考えます。

最後になりますが今年を振り返った時、正直、辛くなかったと言えば嘘になりますが「セクレタリー」という役を受けなければこのようなことを考える機会は無かったです。そして今はこのような環境を与えていただいた金原理事長、J.Cメンバーの皆様には本当に感謝しています。今後は皆様へ恩返し出来るよう、活動して参ります。

皆様、本当にありがとうございました。

出向者報告

社団法人 日本青年会議所

副会頭 奥原 祥司

2005年度は、日本青年会議所に副会頭として出向させて頂きました。

LOMの皆様には、多くの御支援・御協力を賜りました。人的支援としては奈良特別補佐を始めとする6名の補佐をお送り頂きました。LOM外からも4名の補佐を頂き、総勢10名の補佐体制を頂きました。又、各種大会へも大変多くの御協力を頂きました。特に担当が国際グループということで、全国大会やサマコン等の国内開催の各種大会のみならず、ASPACマカオ大会・世界会議ウィーン大会へも多くの御登録、そして現地への参加をして頂き、大変お世話になりました。皆様方のお陰を持ちまして、副会頭という大役を全うすることが出来ました。改めて御礼申し上げます。

ASPAC・世界会議では、ジャパンナイトへのブース出展もして頂き、大会自体の盛り上がりにも一役買って頂きましたが、特記すべきは、やはり世界会議ウィーン大会だと思っております。特に私が06年度JCI-EVPに立候補した関係もあり、現地へは大変多くのメンバーにお越し頂きました。日本からの、そして呉からの多くのメンバーに支えられて嬉しい反面、“何が何でも当選しなければ”というプレッシャーに押し潰されそうになりながらも頑張れたのは、皆様の御支援を感じられたからだと痛感しております。お陰様でJCI-EVPにも当選することが出来、皆様の御協力への御恩返しをさせて頂くステージを作させて頂きました。06年は北南米大陸のエリアC担当となりましたが、皆様から頂いた御支援・御協力を糧に、06年も頑張っていきたいと思っております。

03年には日本JCI国際系の委員長、04年にはJCI-VP、そして05年には日本JCI国際担当副会頭を経験させて頂き、国際系を担わせて頂いておりますが、常に感じていることは「国際交流・国際貢献は、誰か特別な人が、どこか遠いところで行っている」ということではなく誰もが出来ることであり、それを発信出来る活動をして来たつもりです。06年は再びJCIに出向することになりましたが、是非ともこれを良い機会に、皆様にも国際交流・国際貢献に触れて頂ければと思っておりますし、その為に私を活用して頂ければと思っております。

最後になりますが、05年の皆様の御支援・御協力に感謝申し上げます、そして06年も変わらぬ御支援・御協力、そして御鞭撻を頂けることを祈念致して、出向者報告に代えさせて頂きます。有り難う御座居ました。



出向者報告

社団法人 日本青年会議所 中国地区

広島ブロック協議会 地域力創造部門

副会長 松本 明彦

私は、2005 年度広島ブロック協議会副会長として出向させて頂きました。ロムからは、小松義人君と吉田真也君に副会長セクレタリーとして御出向頂き、大変心強い態勢で臨むことが出来ました。

檜山会長のもと、「見つめ直そう、我々の魅力を、我々の街を！12の LOM という花が輝いてブロックという大輪の花となるように！！ ええひと ええ街 ええ暮らし、ええじゃないか広島！！」のスローガンのもと、交流を全面的に事業展開いたしました。私は、地域力創造部門の副会長として、「広島力再発見委員会」と「ええじゃないか広島委員会」を受け持たせて頂きました。広島力再発見委員会は、地場産業をキーワードに事業を展開し、ええじゃないか広島委員会は、県内の観光をキーワードに事業展開して頂きました。

最後に、初めての出向ということもありましたが、県内の多くのメンバーと交流することができましたし、LOM メンバーより多大なるご支援ご協力を頂いたお陰で役を努めさせて頂いたと深く感謝いたしております、本当にありがとうございました。本年度は、ブロックのでの経験を理事長という大役に生かしていきたいと考えております。



2005年度 (社) 吳青年会議所収支決算報告書

(自2005年1月1日・至2005年12月31日)

社団法人 吳青年会議所

理 事 長 金 原 一 次

専 務 理 事 海 生 知 亮

事 務 局 長 岡 本 和 幸

[単位:円]

() 一般会計の部

(1) 一般会計収支計算書

(自2005年1月1日・至2005年12月31日)

(収入の部)

科 目	2005年予算額	2005年決算額	過 / 不足	摘 要
会 費 収 入	17,845,000	17,510,000	-335,000	
入 会 金 収 入	1,575,000	1,575,000	0	
登 録 料 収 入	3,227,500	3,069,400	-158,100	
雑 収 入	470,000	451,300	-18,700	
受 取 利 息 収 入	15,000	2,965	-12,035	
補 助 金 収 入	450,000	450,000	0	
販 売 収 入	0	0	0	
(当期収入合計)	(23,582,500)	(23,058,665)	(-523,835)	
前 期 繰 越 収 支 差 額	2,888,939	2,888,939	0	
合 計	(26,471,439)	(25,947,604)	(-523,835)	

〔支出の部〕

科 目	2005年予算額	2005年決算額	過 / 不足	摘 要
負 担 金	1,428,320	1,428,820	-500	
事 務 費	7,582,000	7,221,419	360,581	
会 議 費	0	0	0	
委 員 会 事 業 費	13,695,400	10,612,191	3,083,209	
渉 外 費	540,000	526,060	13,940	
J C 基金当期積立額	1,575,000	1,575,000	0	
外部会計人監査費	126,000	126,000	0	
退職積立金積立額	60,000	60,000	0	
修繕積立金積立額	120,000	120,000	0	
会費等回収不能額	0	586,543	-586,543	
予 備 費	1,344,719	0	1,344,719	
(当期支出合計)	(26,471,439)	(22,256,033)	(4,215,406)	
次期繰越収支差額	0	3,691,571	-3,691,571	
(うち当期収支差額)	()	(802,632)	(-802,632)	
合 計	(26,471,439)	(25,947,604)	(523,835)	

(2) 一般会計収支明細表

〔自2005年1月1日・至2005年12月31日〕

〔収入の部〕

科 目	2005年予算額	2005年決算額	過 / 不足	摘 要
1. 会 費 収 入	(17,845,000)	(17,510,000)	(-335,000)	
(1) 正会員会費収入	13,450,000	13,175,000	-275,000	
(2) 特別会員会費収入	4,395,000	4,275,000	-120,000	
(3) 特別名誉会員会費収入	0	60,000	60,000	
2. 入 会 金 収 入	(1,575,000)	(1,575,000)	(0)	
(1) 正会員入会金収入	600,000	600,000	0	
(2) 特別会員入会金収入	975,000	975,000	0	
3. 登 録 料 収 入	(3,227,500)	(3,069,400)	(-158,100)	
4. 雑 収 入	(470,000)	(451,300)	(-18,700)	
(1) ファイン収入	400,000	365,000	-35,000	
(2) その他の雑収入	70,000	86,300	16,300	
5. 受 取 利 息 収 入	(15,000)	(2,965)	(-12,035)	
6. 補 助 金 収 入	(450,000)	(450,000)	(0)	
7. 販 売 収 入	(0)	(0)	(0)	
(当期収入合計)	(23,582,500)	(23,058,665)	(-523,835)	
8. 前期繰越収支差額	(2,888,939)	(2,888,939)	(0)	
合 計	(26,471,439)	(25,947,604)	(-523,835)	

〔支出の部〕

科 目	2005年予算額	2005年決算額	過 / 不足	摘 要
1. 負 担 金	(1,428,320)	(1,428,820)	(-500)	
(1) 会 費 基 本 額	60,000	60,000	0	
(2) 会 費 付 加 金	432,500	432,500	0	
(3) J C I 会 費	119,070	119,070	0	
(4) 日 本 J C 出 向 者 負 担 金	80,000	80,000	0	
(5) 国 際 協 力 金	164,250	164,250	0	
(6) J C プ レ ス 購 読 料	252,000	252,500	-500	
(7) 地 区 負 担 金	41,500	41,500	0	
(8) プ ロ ッ ク 負 担 金	279,000	279,000	0	
2. 事 務 費	(7,582,000)	(7,221,419)	(360,581)	
(1) 事 務 局 職 員 給 与	3,120,000	3,074,042	45,958	
(2) 福 利 厚 生 費	370,000	405,627	-35,627	
(3) 旅 費 交 通 費 諸 手 当	10,000	520	9,480	
(4) 借 室 料	1,344,000	1,344,000	0	
(5) 水 道 光 熱 費	150,000	117,450	32,550	
(6) 消 耗 品 費	1,000,000	930,448	69,552	
(7) 通 信 費	900,000	857,313	42,687	
(8) 印 刷 費	150,000	69,300	80,700	
(9) 購 読 料	38,000	35,400	2,600	
(10) 雑 費	500,000	387,319	112,681	
3. 会 議 費	(0)	(0)	(0)	
4. 委 員 会 事 業 費	(13,695,400)	(10,612,191)	(3,083,209)	
(1) 創 造 の 匠 委 員 会	1,250,000	372,597	877,403	
(2) ま ち づ くり の 匠 委 員 会	1,250,000	1,272,537	-22,537	
(3) 情 熟 ある 共 生 の ま ち 創 造 委 員 会	1,230,000	1,204,501	25,499	
(4) ア カ デ ミ ー 委 員 会	933,500	666,383	267,117	
(5) 渉 外 委 員 会	1,141,000	795,347	345,653	
(6) 総 務 委 員 会	6,123,400	5,136,672	986,728	
(7) 事 務 局 長	1,767,500	1,164,154	603,346	
(8) 財 務 運 営 会 議	0	0	0	
5. 渉 外 費	(540,000)	(526,060)	(13,940)	
6. 退 職 積 立 金 積 立 額	(60,000)	(60,000)	(0)	
7. 修 繕 積 立 金 積 立 額	(120,000)	(120,000)	(0)	
8. 会 計 監 査 費	(126,000)	(126,000)	(0)	
9. J C 基 金 積 立 額	(1,575,000)	(1,575,000)	(0)	
10 会 費 等 回 収 不 能 額	(0)	(586,543)	(-586,543)	
(1) 一 般 会 費 回 収 不 能 額	0	561,350	-561,350	
(2) そ の 他 回 収 不 能 額	0	25,193	-25,193	
11. 予 備 費	(1,344,719)	(0)	(1,344,719)	
(当期支出合計)	(26,471,439)	(22,256,033)	(4,215,406)	
12 当 期 収 支 差 額	(-2,888,939)	(802,632)	(-3,691,571)	
13 次 期 繰 越 収 支 差 額	(0)	(3,691,571)	(-3,691,571)	
(1) 前 期 繰 越 収 支 差 額	2,888,939	2,888,939	0	
(2) 当 期 収 支 差 額	-2,888,939	802,632	-3,691,571	
合 計	(26,471,439)	(25,947,604)	(523,835)	

(3) 貸借対照表(一般会計)

(2005年12月31日現在)

借方科目	金額	貸方科目	金額
1. 現金	512,637	1. 未払金	3,754
2. 普通預金	4,152,614	2. 供託金	1,973,926
3. 定期預金	10,868,940	3. J C 基金	9,218,266
4. 未収金	1,004,000	4. 職員退職積立金	1,530,000
		5. 修繕積立金	120,674
		6. 前期繰越収支差額	2,888,939
		7. 当期収支差額	802,632
借方合計	16,538,191	貸方合計	16,538,191

(4) 財産目録(一般会計)

(2005年12月31日現在)

財産の内訳		
科目	内訳	金額
1. 現金	手元在高	512,637
2. 普通預金	呉信用金庫 本店	2,614,712
	もみじ銀行 呉営業部	758,444
	広島銀行 呉支店	779,458
3. 定期預金		
	呉信用金庫 本店	4,928,266
	もみじ銀行 呉営業部	840,000
	広島銀行 呉支店	5,100,674
4. 未収金		
	呉市補助金未収金	450,000
	会費未収金	554,000
(財産の額)		16,538,191
債務の内訳		
1. 未払金		
	05事業報告書作成	3,754
(債務の額)		3,754
(正味純財産の額)		16,534,437

(5) J C 基金増減計算書

(自2005年1月1日・至2005年12月31日)

科目	当期取崩額	当期積立額	繰越基金の額
1. 前期繰越基金		0	7,643,266
2. 当期基金増加額		1,575,000	1,575,000
3. 当期基金減少額		0	0
4. 次期繰越基金			9,218,266

(6) 収支差額処分計算書

(2005年12月31日現在)

1. 次期繰越収支差額		
(1) 前期繰越収支差額	2,888,939	
(2) 当期収支差額	802,632	3,691,571
上記のとおり全額次期に繰越しすることとする。		
2. 次期繰越収支差額		3,691,571

様式3-1

(一般会計の部)
正味財産増減計算表
 (自2005年1月1日・至2005年12月31日)

(社団法人呉青年会議所)

【単位:円】

科 目	金	額	
増加の部			
1. 資産増加額		2,350,438	
(1) 普通預金増加額	834,764		
(2) 定期預金増加額	1,515,674		
2. 負債減少額		389,556	
(1) 未払金減少額	389,556		
増加額合計		(2,739,994)	(2,739,994)
減少の部			
1. 資産減少額		958,149	
(1) 現金減少額	655,799		
(2) 未収金減少額	302,350		
2. 負債増加額		0	
減少額合計		(958,149)	(958,149)
当期正味財産増加額			(1,781,845)
前期繰越正味財産額			(14,752,592)
期末正味財産合計額			(16,534,437)

様式9-1

正味財産増減計算表総括表
 (自2005年1月1日・至2005年12月31日)

(社団法人呉青年会議所)

【単位:円】

科 目	合計	一般会計	特別会計
増加の部			
1. 大科目別記載			
(1) 資産増加額	2,350,438	2,350,438	
(2) 負債減少額	389,556	389,556	
増加額合計	2,739,994	2,739,994	
減少の部			
1. 大科目別記載			
(1) 資産減少額	958,149	958,149	
減少額合計	958,149	958,149	
当期正味財産増加額	1,781,845	1,781,845	
前期繰越正味財産額	14,752,592	14,752,592	
期末正味財産合計額	16,534,437	16,534,437	

様式8

(社団法人呉青年会議所)

収支計算書総括表
(自2005年1月1日・至2005年12月31日)

【単位:円】

科 目	合計	一般会計	特別会計
・ 収入の部			
1. 大科目別記載			
当期収入合計	23,058,665	23,058,665	
前期繰越収支差額	2,888,939	2,888,939	
収入合計	25,947,604	25,947,604	
・ 支出の部			
1. 大科目別記載			
当期支出合計	22,256,033	22,256,033	
当期収支差額 -	802,632	802,632	
次期繰越収支差額	3,691,571	3,691,571	
支出・繰越差額合計	25,947,604	25,947,604	

様式10

(社団法人呉青年会議所)

貸借対照表総括表
(2005年12月31日現在)

【単位:円】

科 目	合計	一般会計	特別会計
・ 資産の部			
1. 大科目別記載	16,538,191	16,538,191	
資産合計	16,538,191	16,538,191	
・ 負債の部			
1. 大科目別記載	3,754	3,754	
負債合計	3,754	3,754	
・ 正味財産の部			
正味財産	16,534,437	16,534,437	
負債及び正味財産	16,538,191	16,538,191	


監査報告書

2005年度 社団法人 呉青年会議所に係る収支決算報告書について監査した結果、上記のとおり相違ないことを報告します。

2006年1月20日

社団法人 呉青年会議所 《会計監査》

監 事

中野 誠治 

監 事

多賀 茂 

監査報告書

社団法人 呉青年会議所 御中

上記、社団法人 呉青年会議所2005年度収支決算報告書に関して、本職は補助者3名をもって、一般会計及び特別会計における、現金の実査、諸預金の残高確認、諸帳簿の記帳確認、証憑書類・関係書類の照合確認等監査致しました結果、すべて適正、適法に処理が為され、且つ上記のとおり正当に表示されていることを認めます。

2006年1月20日

広島県呉市中通2丁目4番14号

武安会計事務所

監査人・税理士

武安 紘二 